

令和6年度（令和5年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

令和6年9月

網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、令和5年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

令和6年9月

網走市教育委員会 教育長 岩 永 雅 浩

目 次

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	1
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	「令和5年度教育行政推進方針」についての点検	2
1	総評	2
2	事業の点検	2
	[学校教育の推進]	
1	幼児期に身につけるべき基礎の育成	2
2	確かな学力の育成	3
3	豊かな人間性の育成	6
4	健やかな体の育成	8
5	支援が必要な子どもに対する教育体制の充実	11
6	学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	14
7	学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現	17
	[社会教育の推進]	
1	生涯学習	22
2	社会教育	30
3	家庭教育	38
4	芸術文化	40
5	文化財	51
6	スポーツ	52
7	国際化対応	58
III	教育委員会の活動状況	59
1	教育長及び教育委員の就任状況	59
2	教育委員会議の開催状況	59
3	その他の主な活動	62
4	教育委員による自己点検	63
IV	外部評価報告書	67
1	学校教育	67
2	社会教育	70

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、平成20年度から、全ての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第26条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

令和5年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

令和5年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け、教育委員会において実際に管理・執行している事務として、令和5年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取組実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により令和5年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、北海道教育大学旭川校 学校臨床教授 吉田昌広氏と、元網走市社会教育委員 岡山一枝氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」「網走市教育行政推進方針」「令和5年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ 「令和5年度教育行政推進方針」についての点検

教育行政推進方針は、毎年、網走市議会第1回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

令和5年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

1 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。

こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えます。

2 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

1 幼児期に身につけるべき基礎の育成

項目	幼保小連携事業（継続）
目的	子どもが円滑に小学校生活を始められるよう、幼児と小学校児童との交流を充実させるとともに、教職員間で情報交流の促進を図る。
取組実績	・1日体験入学の実施 ・学校行事の合同開催（運動会・防災訓練） ・教育支援委員会の開催（令和5年10月17日、令和5年12月12日） ・教育相談会の実施（新就学児童相談申込者35名）
成果	小学校への円滑な接続が図られている。
課題	特別支援を必要とする児童の数は年々増加傾向にある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、小学校への円滑な接続に努めていく。

項目	国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置〕（継続）
目的	小学校及び中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「外国語指導助手（ALT）」を配置し、生きた英語に触れることにより、児童生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手（ALT）の配置（2名）による市内全小中学校への訪問、指導 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・英語能力コンテスト等への協力 ・地域における国際交流への協力
成果	ALTの生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られた。
課題	ALTの来日当初は、うまくコミュニケーションが図れない場面もあることから、3年程度の継続雇用が必要と考える。
今後の方向性	引き続きALT2名体制を維持していく。

項目	学習支援員配置事業（継続）
目的	市費負担による算数・数学における学習支援員を配置し、TT（チーム・ティーチング）指導・習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	・退職した教員や、免許所有者を会計年度任用職員として任用し、小学校4校、中学校2校に配置し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成果	きめ細かな指導が可能となり、基本・基礎の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課題	道教委加配による少人数指導と連携した、より効果的な活用法の検討が必要。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

項目	あばしり寺子屋開催事業（継続）
目的	小学1～6年生を対象に学生ボランティアによる学習サポートを行い、参加児童にとって必要な学力を見極め、「わかる喜びやできる喜び」を体得させることを通して、学習習慣の定着や学力の向上など、「確かな学力」を身につけさせる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・東京農業大学生物産業学部 学生ボランティア 延べ人数：95名 ・実施回数9回（5/27、6/24、7/10、7/22、8/26、9/9、9/30、11/4、11/18） ・延べ参加人数：1年生2名、2年生21名、3年生0名、4年生5名、5年生23名、6年生4名 計55名
成果	学生ボランティアのサポートにより、参加児童の学習意欲向上が図られた。
課題	参加児童を増加させる仕組みや効果的な周知方法の検討が必要。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の学力向上に努める。

項目	キャリア教育の充実（継続）
目的	学校の教育活動全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を育成し、児童生徒のキャリア発達を促す。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート用ファイルの購入（新小学1年生用 220冊 ※予備含む） ・児童生徒が自ら将来とキャリアを考えるための職場見学や職場体験を実施
成果	活動内容を記録したキャリアパスポートを振り返ることで、自己理解や自己管理能力の育成につながった。また、職場見学や職場体験を通じて、社会的・職業的自立に必要な基礎が育成された。
課題	特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じた教育の実践が必要である。
今後の方向性	引き続き、キャリアパスポート用ファイルを整備するとともに、職場への見学や体験の受け入れに関する情報を提供し、キャリア教育の充実を図る。

項目	魅力あふれる授業づくり事業（新規）
目的	学力向上推進講師を招聘し、指導・助言を受けることで市内校の授業改善を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・白鳥台小授業研究会（令和5年6月22日） 講師：佐野 亮子氏（東京学芸大学非常勤講師） ・南小研究会（令和5年8月25日） 講師：樺山 敏郎氏（大妻女子大学家政学部児童学科教授） ・白鳥台小公開研究会（令和5年10月13日） 講師：奈須 正裕氏（上智大学総合人間学部教育学科教授） ・中央小公開研究会（令和5年10月20日） 講師：樺山 敏郎氏（大妻女子大学家政学部児童学科教授）
成果	学力向上推進講師の指導・助言により授業改善が図られた。
課題	市全体の取組となるよう、未実施校での取組を進める必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、授業改善を図っていく。

3 豊かな人間性の育成

項目	小中学校図書館図書整備事業（2事業）（継続）
目的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数及び鮮度を考慮し、各学校へ予算を配当：小学校 2,910 千円、中学校 1,940 千円 ・学校図書館で利用する消耗品の購入費として、各校 10 千円を配当
成果	毎年度所要額を予算措置することにより、図書の整備・充実が図られた。 小学校 2,156 冊購入、中学校 1,481 冊購入
課題	図書の劣化や破損に対する対応や必要な古書の見極めが必要である。
今後の方向性	令和 5 年度末の図書整備基準冊数達成率は、小学校全体で 113.2%、中学校全体で 101.7%となっている。引き続き基準冊数を保持しながら、鮮度を考慮した古書・毀損（きそん）図書の更新に努める。

項目	学校図書館司書の配置（継続）
目的	学校図書館司書を配置し、図書館整備・活用を推進することにより、児童生徒の読書への関心を高め、学力の向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・司書資格を有する者を配置することにより、学校図書館資料の管理や整理、児童生徒に対する読み聞かせ、学校図書館に関する教育指導への支援を行う。 ・平成 25 年度から学校図書館司書 1 名を小学校 3 校にモデル的に巡回配置。平成 27 年度は 3 名体制として司書教諭不在の状況を解消。平成 29 年度よりさらに増員して 4 名体制として、司書教諭配置校にも巡回を行い、読書への関心を高める取組を推進している。
成果	図書の整理・分類整備が進み、児童生徒の読書への関心が高められた。
課題	引き続き、児童生徒の読書への関心を向上させるための取組が必要である。
今後の方向性	今後も全ての学校へ巡回配置を行い、事業を継続していく。

項目	読書感想文コンクールの実施（継続）
目的	読書感想文コンクールを開催し、読書活動の推進を図ることにより、児童生徒の読書意欲を高め、自分の考えを文章で表現する力を身につけさせる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・応募作品数：1,590 点(小学校 1,167 点、中学校 423 点) (小学校)1 年生 101 点、2 年生 215 点、3 年生 177 点、 4 年生 222 点、5 年生 215 点、6 年生 237 点 (中学校)1 年生 188 点、2 年生 181 点、3 年生 54 点 ・賞：部門ごとに最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、佳作 2 点を選出
成果	文章で表現することを通して、豊かな人間性や考える力を育んだ。
課題	読書習慣の定着化や文書表現力を身に付けさせる効果的な方法の検討が必要。
今後の方向性	令和 5 年度で事業完了したが、さらなる読書習慣の定着が図られるよう努めていく。

項目	網走市子ども会議の実施（継続）
目的	いじめの根絶や命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめ問題への取組の一層の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年2月17日に開催。児童会や生徒会等がいじめ問題の解決や人間関係づくりに取り組んだ内容の交流や、いじめの根絶・命の大切さなどについての意見交流を行った。 ・参加児童生徒数：小学校17名 中学校12名
成果	他校の取組を知ることで、自校での課題解決活動のきっかけづくりとなった。
課題	テーマを限定せず、今日的な教育的課題や子どもたちの関心があることなどについて、会議内容の検討が必要である。
今後の方向性	児童生徒の意識啓発や自発的な課題解決に向けた機会として、引き続き実施する。

項目	学校教育指導奨励諸補助負担金〔合同観劇事業補助〕（継続）
目的	児童に優れた芸術文化を鑑賞させることにより、豊かな表現力と情操教育の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・網走市合同観劇実行委員会が実施する網走市内小学校合同観劇事業に対し、児童の鑑賞料金を補助 ・事業内容 株式会社「劇団影法師」による演劇鑑賞（8会場） ・参加児童数 1,244名
成果	優れた芸術に触れることで児童の感性を高め、豊かな情操や多様な価値観を養うことができ、様々な表現を学ばせることで、子どもの表現活動に生かすことができた。
課題	豊かな表現力と情操教育の充実を図るため、年齢に応じた鑑賞方法の検討が必要である。
今後の方向性	引き続き実施する。

項目	いじめ対策事業（継続）
目的	いじめの実態を把握し、未然防止、早期発見・対応に向けた指導・助言を行うとともに、児童生徒に対する「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの意識醸成を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する調査の実施（年2回） ・いじめ防止啓発資料の作成 ・市内小中学校のいじめ対策への支援、相談カードの配布（小学1・3・5年生、中学1・3年生） ・いじめ問題調査委員会の運営補助
成果	いじめ問題の取組についての普及・啓発が図られた。
課題	全ての児童生徒が「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの理解を深めるとともに、保護者を含めた全市民的ないじめ撲滅の意識醸成が必要である。
今後の方向性	いじめ問題克服のため、学校全体が組織的にいじめの未然防止に向け、いじめを許さない環境づくりと、関係機関が一体となり継続的に取り組むとともに、児童生徒がためらわず相談できる環境づくり、全市民的ないじめ撲滅の意識醸成を図る。

4 健やかな体の育成

項目	学校プール管理事業（継続）
目的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校9校のうち5校で実施(中央小、西小、南小、東小、白鳥台小) ※網走小、潮見小、呼人小は市民健康プール、西が丘小は西地域プールで授業実施 ・プール管理人を各校1名配置し、日常点検（水質、水温、室温等）を実施 (委託先：シルバー人材センター) ・定期検査の実施(学校薬剤師と市1名で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等を点検) ・プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施
成果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	施設の老朽化が進んでおり、施設維持のためのメンテナンスが課題である。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童生徒の心身の健全な発達を図る。
取組実績	・スケートリンク等設置に対する補助 4校(網走小、東小、白鳥台小、西が丘小)
成果	スケート授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	スケートリンクの造成はPTAの方々による協力が必要となり、リンクの造成に大きな負担がかかっている。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる子どもたちの心身の健全な発達を図っていく。

項目	児童生徒の健康管理事業（継続）
目的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 ・在籍する児童生徒を対象とした各種検診の実施 (尿検査、結核検診、脊柱側弯症検査、眼科検診、心臓検診、耳鼻咽喉科検診)
成果	健康診断を実施することにより、児童生徒の健康管理が図られた。
課題	医師会との連携、各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の健康管理の推進に努める。

項目	中学校体育文化振興事業補助(拡充)
目的	生徒が対外試合やコンクール等に参加する場合に、経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、体育・文化活動の振興を図ることを目的とする。
取組実績	・補助実績：15,129千円
成果	学校外における体育・文化活動を通じ、生徒の健全な心身の育成を図り、体育・文化活動の振興に寄与した。
課題	生徒の体育・文化活動の振興のため、補助対象範囲や補助要件の検討が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	学校給食運営事業〔施設・備品の整備、衛生管理〕（継続）
目的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備・備品の主な修繕及び更新の実施状況 向陽ヶ丘地区共同調理場暖房設備改修工事（3,861千円） 潮見地区共同調理場消毒保管庫移設工事（435千円）等 ・ 学校給食従事職員研修会（年1回） ・ 学校給食衛生管理基準に基づく定期検査（年3回/市教委実施） ・ 学校給食施設立入調査（年1回/保健所実施） ・ 給食調理員等の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施 ・ 児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応
成果	衛生管理に努め、健やかな身体の成長を図るため、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に提供することができた。
課題	児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	給食を安定的に提供するための調理体制の整備を進める。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していく。

項目	学校給食費無償化事業（新規）												
目的	児童生徒の保護者の経済的負担を軽減し、子育て支援の充実を図るとともに、安全・安心でおいしい学校給食を安定的に提供する。												
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒数に応じた年間食数分の金額を各調理場へ補助金として交付 （補助金交付金額） <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">桂ヶ岡地区共同調理場</td> <td style="text-align: right;">28,928千円</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘地区共同調理場</td> <td style="text-align: right;">19,578千円</td> </tr> <tr> <td>潮見地区共同調理場</td> <td style="text-align: right;">25,870千円</td> </tr> <tr> <td>南地区共同調理場</td> <td style="text-align: right;">42,169千円</td> </tr> <tr> <td>西部地区共同調理場</td> <td style="text-align: right;">5,509千円</td> </tr> <tr> <td>西小学校給食調理場</td> <td style="text-align: right;">6,570千円</td> </tr> </table>	桂ヶ岡地区共同調理場	28,928千円	向陽ヶ丘地区共同調理場	19,578千円	潮見地区共同調理場	25,870千円	南地区共同調理場	42,169千円	西部地区共同調理場	5,509千円	西小学校給食調理場	6,570千円
桂ヶ岡地区共同調理場	28,928千円												
向陽ヶ丘地区共同調理場	19,578千円												
潮見地区共同調理場	25,870千円												
南地区共同調理場	42,169千円												
西部地区共同調理場	5,509千円												
西小学校給食調理場	6,570千円												
成果	安全・安心でおいしい学校給食を無償で児童生徒に提供し、保護者の経済的負担を軽減した。												
課題	児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。												
今後の方向性	引き続き、保護者の経済的負担の軽減を図るため、給食費の無償化を実施していく。												

項目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。また、地場産物を活用した給食を実施するなど、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭5名） ・「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施（鮭ザンギ丼、すりみ汁、ホタテと行者菜のオイスターソース炒め、ほっけのカレー揚げ、ホタテとタコの炊き込みご飯） ・地元産業や地場産物への理解を深めるため、希望校においては生産者講話を実施 ・学校給食用パンへ網走産小麦を100%使用 ・鯨食文化の理解を深めるために、鯨肉を使用した給食の実施 ・野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした「野菜の日給食」の実施
成果	食育の推進や地元食材を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。
課題	生産者や流通などの関係機関との連携体制の強化を図る必要がある。
今後の方向性	各学校の栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。また、今後も地元食材を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」を継続して実施していく。

項目	子ども体力づくりサポート事業（継続）
目的	市内の児童生徒が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、運動習慣の定着や体力づくりの向上に資する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・講師（学校法人日本体育大学）による体育科の示範授業を実施（令和6年1月30日、西小） ・教員を対象とした研修会を実施（令和6年1月30日、参加教員：31名）
成果	専門的な指導のもと、児童生徒の体力向上に関する興味関心の増大や、教員の指導方法の向上につなげることができた。
課題	教員の指導方法や児童の体力向上に対する意欲付けなどを市内全校に広げていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の体力向上のための指導改善を図る。

項目	ラグビー大会の開催（継続）
目的	ラグビー大会を開催することにより、児童の健全な発達・成長を促し、体力向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・参加児童 小学3年～6年 11チーム 80名 ・開催日時 令和5年10月1日（日）9時～12時40分 ・会場 網走スポーツ・トレーニングフィールド
成果	ラグビーの取組を通して、身体能力の向上、健康的な体づくりに寄与した。
課題	市内全ての小学校が参加できるよう呼びかけていく必要がある。
今後の方向性	網走市ラグビーフットボール協会の協力をいただき、各学校におけるラグビーの取組を積極的に行うこととし、今後も継続して大会を開催する。

5 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

項目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費、施設・備品等整備〕（拡充）
目的	特別支援学級、通級指導教室の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育費学校配当：小学校 9 校 1,956 千円、中学校 6 校 1,133 千円 既存特別支援学級教材備品の整備： 小学校 5 校(31 学級) 958 千円（中央小、南小、西小、東小、白鳥台小） 中学校 5 校(16 学級) 600 千円（第二中、第三中、第四中、第五中、呼人中） ※整備未実施の小学校 4 校、中学校 1 校は、令和 5 年度の要望なし 潮見小通級指導教室（新規開設）教材備品の整備：192 千円 通級指導教室への教材費等配当：中央小 362 千円、潮見小 91 千円
成果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	増加・多様化する支援の必要な児童生徒に対し、個々の特性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。

項目	特別支援教育研修事業（継続）
目的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援研修会の開催（令和 5 年 8 月 30 日/エコーセンター）参加者 16 名 講師：中央小 竹村さつき教諭 研修内容：教育相談面接、就学措置判断など
成果	担当教員のより専門的な知識の習得と資質の向上が図られた。
課題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項目	特別支援教育支援員の配置（拡充）
目的	教育上特別な配慮を要する児童生徒の特別支援教育推進のため、通常学級及び特別支援学級に支援員を配置する。
取組実績	支援員の配置：小学校 6 校 23 名、中学校 5 校 6 名
成果	支援員を配置することにより、特別支援学級等においてより円滑な学級運営が図られた。
課題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、より充実した支援を行うため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	毎年度、各学校の実情に応じて支援員の配置を見直し、限られた職員体制の中で効果的に特別支援教育が実施されるよう、その充実に努める。

項目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 相談室の開設（相談員は学校教育部から1名、健康福祉部から2名を配置） 相談延べ件数：175件 保健センターへ移転（令和5年8月18日）
成果	児童生徒及び保護者の不安軽減が図られた。
課題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、日常的な情報交換や対応協議の場を充実し、更に連携を深める必要がある。保護者と情報を共有し、歩調を合わせた児童生徒への指導のあり方が課題である。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・関係機関が連携して適切に対応できるよう相談室の充実を図る。

項目	スクールカウンセラーの配置（拡充）
目的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校の児童生徒のスクールカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施 相談数：年間396回、1,922時間 配置人数：5名
成果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言によりの確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	引き続き、学校における教育相談体制の充実を図る。

項目	不登校児童生徒への支援の充実〔適応指導教室運営事業〕（継続）
目的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、適応指導、学習指導などの指導援助を行い集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、教育支援センターを設置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 指導員の配置(1名) 教育支援センター「クリオネ学級」の開設・運営 (毎週月～金曜日 午前9時～午後3時) 通級児童生徒数：令和5年度15名(小学生6名、中学生9名) 保健センターへ移転（令和5年8月18日）
成果	教育相談や適応指導、学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られた。また、施設移転により教室の拡充等学習環境が向上した。
課題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、学校生活への復帰に向けてそれぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさがある。
今後の方向性	令和6年度より指導員を1名増員し、指導援助体制の充実を図るとともに、一人でも多くの児童生徒が学校復帰できるように努める。

項 目	学級集団状況把握事業〔Q-Uテストを活用した学級集団状況把握〕（継続）
目 的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q-Uテスト(楽しい学校生活を送るためのアンケート式心理テスト)の実施 ・ 小学校 5 校(中央小、西小、南小、白鳥台小、西が丘小) ・ 中学校 4 校(第一中、第二中、第三中、第五中)
成 果	Q-Uテストの結果を学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決が図られた。
課 題	問題行動の早期発見や予防につなげるため、実施校や検査実施回数の拡大などの検討が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、より安定した学級経営を目指す。

6 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

項目	学校開放運営事業（継続）
目的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放し、スポーツ及び文化活動の場として活用する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体：27 団体 延べ利用回数：738 回 ・開放学校：小学校 7 校（網走小、中央小、南小、西小、潮見小、東小、呼人小） 中学校 4 校（第一中、第二中、第三中、第五中）
成果	年間を通じて市民の利用があり、スポーツ活動の場となっている。
課題	利用者が安全に活動できる施設運営と利便性向上策を検討する必要がある。
今後の方向性	スポーツ及び文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。

項目	学校教育研究実践校補助事業（継続）
目的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助し、各校の公開研究会実施を支援した。
成果	実践指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られたほか、実践研究成果の普及に努めた。
課題	教員の授業力向上が児童生徒の学力向上に結びつくよう研究内容の更なる改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上及び児童生徒の学力向上に努める。

項目	コミュニティ・スクール推進事業（継続）
目的	学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクール（CS）の活動を推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・CS研修会の開催（令和5年10月31日/エコーセンター・参加者55名） ・導入校 令和元年度 西部地区学校運営協議会（西が丘小、第五中） 東部三校学校運営協議会（東小、白鳥台小、第四中） 呼人地区学校運営協議会（呼人小、呼人中） 令和2年度 中央、西地区学校運営協議会（西小、中央小、第二中） 網走小学校学校運営協議会 南小学校学校運営協議会 潮見小学校学校運営協議会 第一中学校学校運営協議会 第三中学校学校運営協議会
成果	学校運営協議会を通じて、地域の方が幅広く関わる場が確保された。
課題	各校において、地域との連携を深めるための取組内容の充実が必要である。
今後の方向性	引き続き、学校運営協議会の取組の充実を図る。

項目	部活動あり方検討事業（新規）
目的	少子化により、従来の活動の継続が困難となっている学校部活動のあり方を見直し、子どもたちが将来にわたり各種活動を持続できる環境づくりを目指す。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・検討協議会の設置（8月）及び会議開催（年度内2回） ・児童生徒、保護者及び教職員向けアンケート調査の実施 ・学校部活動地域移行に係る国、北海道の動きに関する住民説明会の開催（11月）
成果	学校部活動の今後のあり方に関する協議を行う場を立ち上げ、将来的な部活動地域移行に向けた各種課題の整理と検討作業に着手することができた。
課題	活動環境の整備、指導人材の確保、活動に要する費用負担など、地域移行の実現には今後整理すべき課題が多い。
今後の方向性	引き続き、学校部活動の地域移行の実現に向けた将来的なあり方について、検討協議会で検討と議論を進める。

項目	学力向上フォーラムの開催（継続）
目的	「オール網走」で学力の向上を目指し、学校・地域・保護者が一体となって、子どもの望ましい成長を考える場とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年12月2日開催（会場：中央小） ・ワークショップ：11ブース ・研修会参加報告：全日本教育工学研究協議会 全国大会参加報告 ・講演：『明治から3回目の学校大転換?!～GIGAと働き方改革の意味を考えよう～』 NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長 新保 元康 氏
成果	教職員、保護者、教育関係者等に教育に関する情報を提供することができた。
課題	学校教育への理解を深めるため、地域・保護者の参加者を増やす取組が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、「オール網走」で学力の向上を図っていく。

項目	奨学資金貸付事業（継続）
目的	能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学困難な学生に奨学金及び入学準備金を貸付け、社会の有用な人材を育成することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度資金貸付状況：5件 972,000円 大学・専門課程（月額18千円×4名） 4件 864,000円 高校・高等課程（月額9千円×1名） 1件 108,000円 ・償還金収納状況 1,444,252円 現年度分 499,000円（収納率 93.2%） 滞納繰越分 945,252円（収納率 9.2%）
成果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課題	貸付償還金の滞納者が増加し、制度の運用に影響が及ばないように、新規滞納者を増やさない等の収納率向上に向けた取組が必要である。 経済的理由により就学の機会を失うことがないように、制度の周知を図る必要がある。
今後の方向性	制度の周知を積極的に行い、利用の拡大を図っていく。

項目	大学給付型奨学金事業（拡充）
目的	向上心があり、学業成績が優秀な学生で、経済的理由により就学困難と認められる者に対し、奨学金等を支給し、社会の有用な人材を育成する。
取組実績	<p>サン育英奨学金 6件 7,900千円</p> <p>①令和3年度決定者（奨学金150千円×12ヶ月×1名、 100千円×12ヶ月×1名-200千円※=2,800千円） ※学校区分の変更に伴う調整</p> <p>②令和4年度決定者（奨学金150千円×12ヶ月×2名=3,600千円）</p> <p>③令和5年度決定者（入学準備金250千円×2名、奨学金150千円×4ヶ月×1名、 100千円×4ヶ月×1名=1,500千円）</p>
成果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課題	企業からの寄附を原資としているため、財源が限られている。
今後の方向性	限られた財源の中で事業を継続していく。

項目	小中学校就学奨励事業（継続） ※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒もしくは入学予定者の保護者に対し就学に要する経費を援助することにより、全ての児童生徒に対する義務教育の円滑な実施に資すること。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、PTA会費、クラブ活動費、オンライン学習通信費の援助 ・要保護者に対する修学旅行費、オンライン学習通信費の援助 ・学校保健安全法第24条及び同法施行令第8条に定める疾病の治療に要した費用の援助 ・令和5年度： 準要保護扶助児童生徒数 368名 特別支援学級在籍扶助児童生徒数 66名
成果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られた。
課題	保護者負担軽減のため、認定事務の効率化を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

7 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

項目	教員住宅管理事業（継続）
目的	教職員住宅の維持修繕及び営繕を行い、教職員の住環境を維持する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度末 管理住宅戸数：60戸 ・毎年度8月中旬に修繕要望を取りまとめ、9月中旬に現地調査を実施 ・修繕内容：住宅補修、水廻り・ボイラー修繕、暖房設備修繕等
成果	修繕要望があった箇所は緊急度が高いものから優先的に修繕を行い、住環境が整備された。
課題	教員住宅の老朽化が進んでいるため、長寿命化改修など適切な整備の検討が必要である。
今後の方向性	学校施設等改修計画を基本としながら、教員住宅の今後のあり方の検討を進める。

項目	学校施設等改修計画策定事業（新規）
目的	学校施設等を対象に施設の現状を調査し、網走市公共施設等総合管理計画に基づき、既存施設を維持する場合における改修・長寿命化や維持管理等のトータルコスト縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設等に求められる機能・性能を確保するための長期的な視点から策定するもの。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年8月下旬に現地調査を実施 ・令和6年3月 本計画策定
成果	現状の学校施設の劣化状況や今後30年間で必要とされる学校施設等の改修費用及び優先順位などが明らかとなった。
課題	各年度の予算検討において、個別の事業費や実施時期を精査するとともに、事業の進捗状況や施設の劣化状況、学校施設等を取り巻く環境変化等に応じた学校施設等のあり方についての早期検討が必要である。
今後の方向性	令和5年度で事業完了

項目	教育施設冷房設備整備事業（拡充）
目的	夏季の猛暑によって教室が高温になり、子どもたちの生命や健康への影響が懸念されることから、冷房設備が整っていない教育支援センター「クリオネ学級」及び家庭児童・教育相談室へエアコンを整備することにより学習環境の向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・工事費：1,797千円 ・教育支援センター（クリオネ学級） 1台 ・家庭児童・教育相談室 1台
成果	学習環境の向上が図られた。
課題	暑さ指数や室温、天候等を考慮して、温度設定など適切な教育環境となるよう運用していく必要がある。
今後の方向性	令和5年度で事業完了

項目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目的	小中学校の適切な管理運営により、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境を維持する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・主な備品購入、業務委託の実施状況 【小学校備品】：中央小 除雪機(979千円)、西小 芝刈機(242千円) 【中学校備品】：第四中 電動断裁機(402千円)、第五中 紙折り機(429千円) 【業務委託】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、貯水槽清掃、トイレ清掃 ・学校配当予算の執行状況 【小学校】需用費 15,273千円、役務費 803千円、備品購入費 1,865千円 合計 17,941千円 【中学校】需用費 10,646千円、役務費 394千円、備品購入費 714千円 合計 11,754千円
成果	学校からの要望等により備品購入及び業務委託を行い、施設の維持が図られた。
課題	学校備品の老朽化が進んでおり、計画的な整備の検討が必要である。
今後の方向性	引き続き予算規模内で備品購入及び業務委託を実施し、児童生徒・教職員の安全・安心な環境づくりを進めていく。

項目	学校改修事業（継続）・学校トイレ改修事業（継続）
目的	学校施設の長寿命化を図り、児童生徒の良好な学習環境を維持する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 【改修事業】 ・網走小 受水槽防水改修工事 (4,653千円) ・西小 屋体屋根改修工事 (37,400千円) ・西小 屋内消火栓改修工事 (5,940千円) ・呼人小 多目的トイレ改修工事 (4,444千円) ・南小 屋体煙突改修工事 (13,035千円) ・第三中 屋体天井改修工事 (4,785千円) ・第三中 屋体LED化改修工事 (16,115千円) ・第四中 屋上防水改修工事 (25,630千円) 【トイレ改修事業】 ・東小 トイレ改修工事 (73,447千円) ・第四中 トイレ改修工事 (58,212千円)
成果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課題	改修財源の確保が必要である。
今後の方向性	学校施設の老朽化が進んでおり、学校施設等改修計画を基本としながら学校施設の今後のあり方の検討を進める。

項目	学校施設の営繕及び修繕（継続）
目的	小中学校の校舎やグラウンド等の営繕及び修繕を行い、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境を維持する。
取組実績	<p>・主な営繕及び修繕の実施状況</p> <p>【小学校】 網走小 グラウンド改修 (1,125 千円) 網走小 体育館床面ウレタン補修 (782 千円) 西小 体育館床面ウレタン補修 (660 千円) 東小 シューズボックス改修 (957 千円)</p> <p>【中学校】 第一中 多目的ホール修繕 (220 千円) 第二中 暖房集中制御器修繕 (627 千円) 第三中 多目的ホール排煙オペレーター修繕(1,144 千円) 第三中 地下灯油タンク液面計取替 (619 千円) 第四中 グラウンド改修 (1,184 千円) 第五中 体育館床面ウレタン補修 (462 千円) 第五中 体育館放送設備取替 (990 千円)</p>
成果	学校からの要望や耐用年数等から、必要な営繕及び修繕を行い、安全・安心な環境が維持された。
課題	営繕及び修繕財源の確保
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって安全・安心な環境づくりを進めていく。

項目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材教具の整備を図る。
取組実績	・網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対する補助（90 千円）
成果	教材教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課題	入学者の確保対策が必要である。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項目	網走南ヶ丘高等学校定時制生徒通学手段確保事業(継続)
目的	定時制生徒の下校時タクシー乗合利用で、利便性の向上と安全確保を図る。
取組実績	<p>・網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対する補助（2,585 千円）</p> <p>・実績 延べ2,114 人利用 利用日数 197 日（実利用人数：15 人）</p>
成果	夜間の下校時における利便性の向上と安全な下校手段の確保が図られた。
課題	入学者の確保対策が必要である。
今後の方向性	今後も下校時の安全確保を図っていく。

項目	子ども安全対策事業〔安全対策、通学路の整備〕（継続）
目的	児童生徒が安全に通学できる通学路の安全対策を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 通学路交通安全等プログラムによる関係機関との合同点検を元に、関係機関と連携し危険箇所について協議・対策を実施 新たな危険箇所について学校や関係機関からの聴取
成果	登下校時における児童生徒の安全を確保した。
課題	より効果的な安全対策について検討が必要である。
今後の方向性	今後も通学路の安全対策を図っていく。

項目	スクールバス運行事業（継続）
目的	網走市郊外の東部・南部地区及び西部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 遠距離通学児童生徒のため、東部・南部地区 5 路線及び西部地区 3 路線の登下校便を運行 小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバス経費の予算を配当（小学校 1,256 千円、中学校 957 千円） 学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を実施 休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を実施
成果	遠距離通学児童生徒の安全で安定的な通学が確保された。
課題	遠距離通学児童生徒のさらなる利便性の向上を図るため、乗車時間、乗降場所、バスの空席状況などの見直しを図る必要がある。
今後の方向性	令和 6 年度より運行体制の見直しを図り、路線数を 8 路線から 11 路線に拡大。今後も継続して、安全・安心な運行体制の維持に努めていく。

項目	部活動指導員の配置（継続）
目的	各競技団体などを通じて推薦のあった地域の外部人材を、市が部活動指導員として任用し中学校に配置することにより、部活動指導の充実と教職員の業務負担軽減を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度：2 名配置（第一中 バレーボール指導員 1 名、第四中 卓球指導員 1 名） 実技指導、大会等の引率などの指導業務を実施 指導回数（2 名合計延べ数）年間 351 回、698.5 時間
成果	生徒の競技力向上による部活動の充実が図られたとともに教職員負担が軽減された。
課題	競技団体の活動状況にもよるが、継続して関わることのできる人材の確保が必要。
今後の方向性	各学校の要望に基づき、引き続き指導員の確保・配置に努める。

項目	吹奏楽楽器整備事業（継続）
目的	ふるさと寄附を活用し、小中学校の音楽教育を支援すべく吹奏楽における楽器を整備する。
取組実績	・市内小中学校(網走小、第一中、第二中、第三中、第五中)から要望のあった楽器を整備
成果	楽器整備により、各校の老朽化した楽器を更新でき、取り組める楽曲の幅が広がった。
課題	楽器が高価であるため、整備できる規模が限られるとともに、楽器の維持管理の支援も必要である。
今後の方向性	今後も児童生徒の音楽教育の充実を図っていく。

項目	教職員研修事業（継続）
目的	教育課題の解決にあたって、教師の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・第49回全日本教育工業研究協議会全国大会への派遣（4名） 開催日：令和5年10月27日（金）～28日（土） 会場：青森県上北郡六ヶ所村 事業内容：協議会への参加、公開授業・研究発表の見学
成果	先進地の取組を視察し、学力向上フォーラムで還元することで、教育の質の向上が図られた。
課題	新学習指導要領への対応など、教育の今日的課題に応じた研修内容の充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	ICT教育研修事業（継続）
目的	GIGAスクール構想における「誰一人取り残すことない、公正に個別最適化された学びの実現」に向けて、教職員の指導力の向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・一般教員向けICT活用研修会 2回 ・先進校（青森県内3校）視察 2名 ・北海道発GIGA活用セミナー登壇 1名 ・ICT活用推進委員会全体会議 2回 ・ICT活用推進委員会推進チーム会議 2回
成果	学校全体のICT化が進むことで、教育の質の向上が図られた。
課題	ICTを「使う」から「活用する」授業実践を推進する必要がある。
今後の方向性	令和6年度より教職員研修事業と統合し、継続していく。

項目	校務支援システム管理事業（継続）
目的	校務支援システムの運用により、各小中学校の校務軽減と情報の共有化を通じて、教育の質の向上を図る。
取組実績	・市内全ての小中学校で教職員の校務用パソコンによる校務支援システム(C4th)を運用
成果	市内全ての小中学校において校務支援システムを活用し、業務の効率化が図られた。 【主な業務内容】学籍管理、出席簿、学校日誌、成績管理、出勤簿機能
課題	全ての教職員が校務支援システムをしっかりと使いこなせるよう、研修やサポートの充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も校務支援システムを活用した業務改善に取り組む。

項目	学校教職員健康診断事業（継続）
目的	教職員を対象に疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、健康診断を実施する。
取組実績	・学校に勤務する教職員203名の健康診断を実施（うち、要再検者48名）
成果	健康診断を定期的実施することにより、教職員の健康管理が図られている。
課題	再検査対象者や未検査者に対する健診の勧奨が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の健康管理の推進に努める。

社会教育の推進

1 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を拓げるため、エコーセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民から講師・企画を募りながら市民誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場を創出する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・主 催 あばしりまなび塾フェスティバル実行委員会、網走市教育委員会 ・開催日時 令和5年11月23日（水・祝） ・会 場 オホーツク・文化交流センター ・開催内容 出展ブース22、ロビーパフォーマンス5、子どもフリーマーケット14 ・来 場 者 約760名（子どもフリーマーケット約710名） ・参加スタッフ 131名
成 果	令和5年度は、11：30～16：00までの開催時間とし実施した。工作や音楽、書道、茶道、武道などを体験学習できるブースを設置して、参加者に学びのきっかけ、ステップアップの機会を提供した。毎年、エコーセンター2000の開館記念日（11/23）に開催しており、市民にも定着したイベントとして、毎年多くの参加を得ている。
課 題	エコーセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、生涯学習活動拡大のため、幅広い周知や参加呼びかけなどを行っていく必要がある。
今後の方向性	個人・サークル等の紹介・発表の場として、市民の生涯学習への取組を喚起する機会として必要な事業であり、実行委員会と十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（拡充）
目 的	市民団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し、講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し生涯学習の推進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対 象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5名以上の参加者が見込まれる学習会とし、運営補助的の事業を除く。 ・要 件 開催する場所・時間・形式は問わない。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・支援内容 講師謝金の助成 ・事業実績 12団体12件 参加者167名（講演会2、実技講習10）
成 果	令和5年度は、予算額を710千円に拡充し事業周知を行った。結果として、これまで利用のなかった6団体より新たに申請があるなど、市民の学習意欲の喚起に対応した。
課 題	自主的な学習・活動のさらなる推進のために幅広い周知PRが必要
今後の方向性	自主的な学習・活動の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。

項目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目的	市民の学習機会を拡充するため、豊富な経験や知識、技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元の間を提供するとともに、学習者が自ら学ぶ機会を創出するための指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者 25名 ・指導内容 39項目（7部門23分野） ・指導先 まちの達人出前事業講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師 ほか
成果	市民の学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の生涯学習の充実が図られた。また、指導者の学習成果の還元の間として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。
課題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容との適合を意識しながら、登録者の活動機会の提供を進めていく必要がある。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充するとともに、指導者への学習成果還元の間を提供することは登録者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、登録者との意見・情報交換や周知PRなどを行い、今後も引き続き取り組んでいく。

項目	子どもと遊ぶボランティア隊の登録（継続）
目的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する間の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者 26名 ・登録内容 工作、音楽、料理、裁縫、陶芸、美術、書道など 18種類 ・実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施（41教室、451名参加）
成果	登録された講師により「ロセトクラブ」として、令和5年度は41教室開催した。
課題	登録者の主体的な取組を推進するため、活動意向や意見を把握する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいております、土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

（2）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより」を掲載 ・市ホームページによる情報提供、報道機関への周知・記事掲載 ・市公式フェイスブック、ツイッターによる情報提供 ・登録者へのメールによる情報提供（お知らせメール@あばしり） ・小学校、中学校、幼稚園等関係機関へのチラシ等の配布 ・ポスターを作成し市内各所に掲示 ・オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実、館内での講座レポート掲示（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成果	各種媒体の活用により、社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。特にGoogleフォームを活用した参加者登録は、定着しつつある。
課題	より効果的なPRのため、情報化社会に対応した手法の研究が必要である。
今後の方向性	引き続き、デザインなどの工夫をしながら広報紙等での周知を図っていく。ホームページやフェイスブックなどのSNSを活用し若い世代を含めて広く情報提供に努める。

(3) 生涯学習関連施設の整備、機能向上

項目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目的	オホーツク・文化交流センター設備更新及び修繕を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・空調自動制御装置の更新 51,700 千円 ・館内証明設備 LED 化工事 165,979 千円 ・エコーホール舞台調光設備 LED 化工事 159,500 千円
成果	建設後 23 年が経過し、施設の長寿命化対策として、空調自動制御装置の更新及び館内証明設備の LED 化工事を実施した。
課題	設備の耐用年数や施設の安全性を考慮し、定期的な保守メンテナンスを実施しながら、計画的に設備更新や修繕を図っていく必要がある。
今後の方向性	エコーセンターは、市民の学習、芸術及びレクリエーション活動の場として重要な施設であることから、今後も安全・安心な施設利用が出来るよう、設備の維持更新に努めていく。

(4) 図書館の充実

項目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者に幅広く情報を提供することにより多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 資料受入数：図書 4,120 冊（内購入 3,507 冊）、雑誌 899 冊（内購入 666 冊）、視聴覚資料 63 点（内購入 31 点）、地方資料 249 冊（内購入 50 冊） 図書館蔵書数：R5 年度末 206,414 冊（R5 年度：購入数 4,254 冊、寄贈他 1,077 冊） 図書貸出人数 26,606 名、貸出冊数 116,394 冊、来館者数（本館）89,314 名
成果	市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。
課題	書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍
今後の方向性	現図書館への移転に伴う購入図書に年数経過による劣化及び陳腐化が生じているため古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。
項目	電子図書整備事業（継続）
目的	市民が来館せずに 24 時間どこでもいつでもインターネットを利用して電子書籍の閲覧、貸出、返却が可能な電子図書館のサービスを提供する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 電子図書数 導入時（令和 2 年 12 月 15 日）2,000 点、令和 5 年度末 5,169 点 ID・パスワード申込者数 560 名、利用者数 2,006 名、貸出冊数 7,412 冊
成果	電子図書館サービスにより多様な読書環境を市民に提供することができた。
課題	幅広い年齢層の利用促進
今後の方向性	電子図書館の周知を継続して行い、あらゆる世代が楽しめるような魅力ある資料の収集と、電子図書館の利活用の促進に努める。
項目	地方資料整備事業（継続）
目的	図書館機能を活用した調べものや地域情報整備のため、網走市や北海道など地方に関する資料の収集を図るとともに、一部の資料について電子化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 資料受入数：249 冊（うち購入 50 冊） 地方資料の電子化 23 点 ※電子図書館で閲覧、貸出可能 地方紙（新聞）の電子化 ①網走新聞 S22 年 7 月～H16 年 7 月発行分 ②網走新報 S27 年 1 月～S31 年 12 月発行分
成果	地方資料の収集及び劣化の激しい地方資料について電子化が図られた。
課題	資料原本の劣化により電子化に特殊な手法が必要なため、費用が高額
今後の方向性	地方資料の収集を継続するとともに、資料の電子化を計画的に進め、劣化資料の保全を図る。
項目	無断持出感知システムの更新（拡充）
目的	図書館が所蔵する網走の歴史資料等、他の図書館にはない貴重な資料の安全な管理、保存を維持する。
取組実績	・無断持出感知システム（BDS）ゲート機器の更新 1 台
成果	機器の更新により、安全な資料の管理、保存を図ることができた。
課題	一定期間経過後の機器の更新
今後の方向性	所蔵する貴重な資料の管理、保存のため必要となる設備の維持に努める。

項目	地域分庫事業（継続）
目的	市立図書館から遠い地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内 10 箇所の地域分庫の維持管理 ・地域分庫利用者数 756 名 貸出冊数 1,130 冊 ・「分庫だより」の作成・配布（郊外地区 4 分庫） ・蔵書の入替え・整備 228 冊購入
成果	市内全域にわたる読書機会の充実が図られた。
課題	地域や施設管理者などとの連携強化
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項目	ふるさと学習支援事業（継続）
目的	地域情報の発信を図る図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示の開催（年 4 回） 第 1 回「あばしりを紹介します」 5/18～30 期間中来場者 2,645 名 第 2 回「スポーツを楽しもう」 6/23～7/30 期間中来場者 4,014 名 第 3 回「地図で楽しむ北海道」（道みんの日特別展示） 7/12～23 期間中来場者 2,820 名 第 4 回「懐かしのあばしり」 3/1～17 期間中来場者 4,114 名 ・「ふるさとあばしりコーナー」を設置し、地方資料を紹介
成果	期間中の来館者に地域課題についての学習機会を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討 ・単発的な展示、紹介から、収集した資料の長期的、系統的な P R 方法の検討
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーの資料充実などを通して、市民に対するふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

項目	インターネットを活用した蔵書公開（継続）
目的	インターネットを活用し利用者サービスの向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット（図書館ホームページ）による所蔵資料の検索、新着・新刊案内、各種お知らせ、予約サービス等の実施 ・スマートフォン等に対応した利用者サービスシステムの運用 ・令和 5 年度 アクセス数 274,394 件 パスワード新規登録者 163 名（登録総数 4,838 名） ・インターネットによる予約サービス利用 2,293 件（サービス利用総数 5,457 件）
成果	インターネットの活用により、利用者の利便性が図られた。
課題	図書館事業や利用方法の周知など、ホームページや SNS の定期的な内容更新が必要
今後の方向性	今後もインターネットを活用した予約サービスの継続とホームページでの情報提供の充実により、利用者サービスの向上を図る。

(5) 読書の普及、読書活動の促進

項目	課題解決型常設展示の実施（継続）
目的	図書館の本は、規則的に分類・配置（日本十進分類法）されているが、利用者の関心の高いテーマ設定により、分類番号によらずテーマごとにまとめて配置することで、利用者の利便性の向上を図る。
取組実績	・日本十進分類法とは別に分類して「健康の本」、「いきいきシニア」、「くらしの本」等のコーナーを設置
成果	利用者の関心の高いテーマであり、図書館活用のきっかけ作りとなっている。
課題	配置可能な本のテーマやジャンルが限定される。
今後の方向性	配置する本の適切な選定を行いながら、利用者に喜ばれるコーナーづくりをめざす。

項目	ブックスタート事業の実施（継続）
目的	乳児期から本に親しむ環境を整え、読書活動の基礎を育むとともに、図書館の利用促進を図る。
取組実績	・ゼロ歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈る。（128名） ・子ども名義のかしだしカードの作成（62名）
成果	乳児期から本に親しむことで、将来の読書活動に結びつくきっかけ作りとなっている。また、親子のコミュニケーションづくりの一助となっている。
課題	子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップや読める年齢になったときの支援が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項目	学校巡回図書（クリオネ文庫）整備事業（継続）
目的	小学校と連携し、児童の身近な場所である学校で本に親しむ環境づくりを進めるため、図書館の本を各教室に配置し、子どもの読書活動の機会の充実を図る。
取組実績	・小学校各教室に30冊ずつ図書を配置。（1～3ヶ月ごとに巡回） ・配置学級数：9校 63学級 配置図書：3,390冊 ・蔵書の入替え・整備 505冊購入
成果	学校の休み時間や授業等で活用され、小学生が本に接する機会が増えている。
課題	図書の計画的更新完了後、一定期間経過した時点で再更新が必要
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、学校と連携しながら事業を継続するとともに、基金を活用しながら計画的に図書の更新を進める。

項目	ブックトーク事業の実施（継続）
目的	小学生の読書量が減少傾向にある中、読書への関心を高め、読書習慣を育むため、ブックトークの手法を活用する。
取組実績	・市内8小学校12クラスで実施 参加合計253名
成果	児童の紹介本への興味・関心が高まり、多くの児童が紹介本を手に取り熱心に読んでいた。また、担任以外の教諭の実施内容への関心も高く、見学も多数あった。
課題	学校及び講師のスケジュール調整
今後の方向性	本の魅力を引き出すプレゼンテーションの優れた技術を有する講師の招聘により、児童の読書への関心を高めるため継続して実施する。

項目	子ども読書週間記念事業の実施（継続）
目的	子ども読書の日（4/23）及び子ども読書週間（4/23～5/12）に合わせて図書館事業を実施し、子どもたちの図書館利用促進と読書活動の推進を図る。
取組実績	・記念イベントの開催 クレヨンカンパニーいろいろげきじょう 5/14 参加 127 名 ・企画展示の実施 こどものための 100 冊 2022・2023 4/22～5/14
成果	乳幼児を含む家族で図書館に親しむ機会の提供と子どもの読書活動の推進に一定の役割を果たした。
課題	工夫を凝らした事業の開催が必要
今後の方向性	記念事業を継続して開催することにより、子どもの読書活動の推進を図る。

項目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図るとともに、乳幼児を含めた読書環境の充実を図る。
取組実績	・よみきかせ会 ①えほんのもり 50回 249名参加 ②子育て支援センター 6回 74名参加 ※「えほんのもり」よみきかせ会は高校生を含むボランティア団体により実施 ・お楽しみ会開催（夏・冬）56名参加 ・一日図書館員体験（夏・冬）55名参加
成果	よみきかせを通じて、子どもに読書の楽しさを伝えることができた。 図書館の仕事に触れる機会を通じて、図書館に親しみを感じるきっかけを提供することができた。
課題	ボランティア団体の会員減少による連携の維持。
今後の方向性	乳幼児から児童までを対象として本や読書に親しむきっかけとなる事業を継続して実施していく。

項目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協働により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	・対面朗読サービス、視覚障がい者の方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作製、「えほんのもり」でのよみきかせなどを実施 ※高齢者施設等でのよみきかせは、一部で再開
成果	点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供ができた。
課題	ボランティアの新たな人材の確保。
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体との協働による事業を継続する。

項目	ボランティア養成事業（継続）
目的	ボランティア団体等の学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民との協働による図書館活動の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いた読み聞かせ講座等を開催 10/28 大人のための絵本セラピー 7名参加 11/11 朗読・読み聞かせ講座 10名参加 ボランティア団体メンバーの指導によるフェルト工作イベントの開催 10/8 「あばしりのものをつくろう」230名参加 ※図書館まつりと同時開催
成果	新たな要素を加味した講座等の開催により、ボランティアの視野を広げるきっかけとなり、また、参加者のボランティア団体への新規加入にもつながった。
課題	講座等の内容は基本を重視しながらも常に工夫が必要
今後の方向性	多様なボランティア活動があるため、今後も各団体の意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを開催していく。

項目	図書館まつりの開催（継続）
目的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	<p>令和5年10月8日（日）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 古本市 来場者780名（主催：あばしり市立図書館友の会） 子ども俳句・短歌大会 応募数945点（展示10/4～8、表彰式10/7） 人形劇団たんぽぽ公演 参加者150名、電子図書館体験会 参加者140名 本が泣いてるよ展 10/4～8 期間中来場者 1,477名
成果	恒例のイベント開催により多くの来場者があり、図書館の利用促進及び読書活動推進が図られた。
課題	今後も関係団体の協力を得て、連携した事業内容や展示の工夫が必要
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項目	読書ノートの配布（継続）
目的	利用者が自ら読了した書籍名等を記録する読書ノートを無料提供し、読書ノートの活用による読書に対する意欲の維持、向上に資する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度配布数 ①小学生用 15冊 ②中高生用 4冊 ③一般用 23冊 市広報誌「広報あばしり」11月号への周知記事掲載 図書館ホームページにダウンロード用ファイルの掲載
成果	一定数の利用者に配布があり、活用されている。
課題	読書ノートの効果的な周知
今後の方向性	読書活動推進のための有効なツールの一つとして配布を継続していく。

項目	絵本パック「ベビークリオネ」「プチクリオネ」の貸し出し（継続）
目的	保護者にとって年齢に応じた選定が難しく悩むことが多い乳幼児向け絵本について、適切な資料を提供し、乳幼児と親が絵本に親しむきっかけとする。
取組実績	<p>司書が年齢別に選定した絵本パックを作り、貸し出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ベビークリオネ」（0～3歳向け5冊、20セット）貸し出し：148回 「プチクリオネ」（4～6歳向け5冊、10セット）貸し出し：39回
成果	乳幼児親子の図書館利用が促進され、読書のきっかけづくりとなった。
課題	今後も親子の利用拡大に向け、絵本の充実や更新が必要
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

2 社会教育

(1) 全ての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして講座を開設する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者のための手作りみそ友講座（2回：6月・11月）計16名 ・麴の発酵食（7月）28名 ・原子模型を作ろう（8月）12名 ・アヒルさん人形づくり講座（10月）13名 ・重さのひみつ（10月）2名 ・ウィルタ刺しゅう入門講座（10～11月全5回）10名（延べ43名） ・予約システム解説講座（3月）19名 <p style="text-align: right;">全8講座、受講者100名（延べ133名）</p>
成果	食や伝統文化、科学など、生活に関わる身近なテーマを講師とともに企画開設し、市民生活の向上につなげている。
課題	市民が地域課題や生活課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払い企画を行う必要がある。
今後の方向性	関係機関や市民との連携、協働により、地域課題の把握に努めながら学習機会を提供していく。

項目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目的	市民が自ら講座を開催する支援を行い、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・アロマワックスサシェとハーブのシューズキーパーづくり（5月）4名 ・初心者のための茶道教室体験講座（6月）11名 ・クラフトバンドでかご作り（6月）12名 ・ブリザーブドフラワーアレンジメント体験（7月）7名 ・手作り化粧品と保湿クリーム作り（12月）17名 ・親子で書アート体験（12月）15名 ・心をととのえる写経（1月）12名 ・クラフトバンドで角型小物入れ作り（3月）18名 ・手作り化粧品とアロマオイル作り（3月）8名
成果	市民ボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。
課題	学習成果の還元を開催目的とするほか、市民の要望に応じた分野、開設時期などを検討する必要がある。
今後の方向性	市民の学習成果の還元機会として、主体的な講座開設とサークル活動の活性化につなげていく。

項目	あばしり学講座の開設（継続）
目的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとする講座を創設し、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め、地域の活性化を目指す。
取組実績	<p>■単講座（対象：一般市民）</p> <p>①「網走湖徹底調査&網走川下り」（7月）16名（学生ボランティア4名）</p> <p>②「船から見る網走港～その役割と歴史を知る～」（8月）8名</p> <p>③「網走のサケを追え！」（10月）14名</p> <p>■ロセットコース～わくわく探検隊～（対象：小学4～6年生）</p> <p>①「網走湖徹底調査&網走川下り」（7月）9名</p> <p>②「酪農体験～牛について知ろう！～」（8月）9名</p> <p>③「かぼちゃ収穫体験！in 稲富」（8月）5名</p> <p>④「あばしりのサケを知ろう！」（10月）10名</p> <p>⑤「ジャック・オ・ランタンを作ろう！」（10月）9名</p> <p>⑥ 中間報告会（10月）2名</p> <p>⑦「お天気教室！in 網走地方气象台」（12月）10名</p> <p>⑧「おーろら乗船体験！」（2月）14名</p> <p>⑨ 報告会（3月）11名</p> <p>■学生 HERO' S（対象：中学・高校・大学生）</p> <p>①「ボランティア研修会」（6月）20名</p> <p>②「あばしり学ロ・セットコース活動支援」（7～3月、全8講座）46名</p> <p>③「あばしり科学フェスティバル支援」（7月）20名</p> <p>④「子ども会サマーキャンプ支援」（8月）9名</p> <p>⑤「ハロウィーンパーティ2023支援」（10月）18名</p> <p>⑥「あばしり市子ども大会支援」（12月）10名</p> <p>⑦「流氷まつりアイスクャンドルづくり」（2月）14名</p> <p>■青年講座 U-35（対象：18～35歳）</p> <p>①「網走の砂浜をきれいにしよう！」（7月）14名</p> <p>②「初めてのフレッシュヨガ」（9月）6名</p> <p>③「ハロウィーンパーティ2023支援」（10月）23名</p> <p>④「あばしり市子ども大会支援」（12月）7名</p> <p>⑤「流氷まつりアイスクャンドルづくり」（2月）13名</p>
成果	各世代に体験学習を通じて、網走の自然や産業の魅力についての学びを提供したほか、学生 HERO' S については、高校生・大学生がジュニアリーダーとしての役割を担うとともに、異世代との交流の中で社会的役割を認識しながら郷土を学ぶ機会となった。
課題	まちづくりや人づくりにつながる題材の研究や手法の工夫によって魅力ある講座づくりを進めることが重要である。
今後の方向性	関係機関との連携により、参加者相互の交流を含めて網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながる講座展開に取り組んでいく。

項目	寿大学の開設（継続）
目的	社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術の習得、健康の維持など、積極的な高齢者の生きがいを求める学習の場を提供する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・大学 開設日 4月～翌年3月／第2・第4水曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 一般教養講座（全9講座） クラブ活動、自治会活動、入学式、賀寿祝賀会、意見発表会、卒業式並びに修了式 ・大学院 開設日 4月～翌年3月／第3水曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 郷土史コース（1年）、自分史コース（2年） 開設数10回 ・在籍数 196名（1年33名、2年12名、3年13名、4年18名、大学院19名（1院10名、2院9名）、生涯研究生101名
成果	高齢者の生きがいや生活技術の習得と社会参加の促進のために必要な学習機会を大学自治会の協力により提供できた。
課題	大学院カリキュラムに対して学生から意見や要望が出ていることから、時代に応じた内容を検討していく必要がある。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応する学習機会の提供と地域社会との交流を通じて、高齢者の社会参加を促す取組を推進していく。

項目	網走市民大学の運営支援（継続）
目的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に対し支援することにより、市民の学習意欲を高め、新しい知識の習得や教養の向上を図る。
取組実績	<p>実施主体：網走市民大学</p> <p>■第48期 網走市民大学講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設日：7月～11月、講座数：全5講座 ①「徳川家康という人」 東京大学史料編纂所教授 本郷和人 氏（7月6日開催、参加者166名） ②「スゴイぞ！あばしり農業」 東京農業大学生物産業学部教授 吉田穂積 氏（8月10日開催、参加者107名） ③「ある幸せ、ない幸せ～自分で決める暮らし方～」 元朝日新聞記者 稲垣えみ子 氏（9月5日開催、参加者169名） ④「私の体験したディズニーマジック・感動を呼ぶサービス」 （有）香取感動マネジメント 香取貴信 氏（10月5日開催、参加者111名） ⑤「人とつながる」 社会医療法人財団慈泉会相澤病院 小平奈緒 氏 （11月1日開催、参加者214名） ・会 場：オホーツク・文化交流センター エコーホール ・内 容：自然科学・人文科学など ・参加数：全講座登録者119名、単科講座受講者258名、延受講者767名
成果	市民主体の運営組織により、幅広いジャンルから講師を招聘し、市民の学習意欲を創出する講座を企画し、市民大学として円滑な運営が行われた。
課題	市民の生活や趣向、地域課題に寄り添った学習内容が編成されているが、幅広い層への参加拡大や講師選考など限られた予算の中で効率的な運営を図ることが求められる。
今後の方向性	学習プログラムの編成方法の検討や市内の他の団体・機関で企画される講演会等と連携するなど、工夫を図りながら引き続き取り組んでいく。

項目	北海道科学大学との連携講座の開催（継続）
目的	北海道科学大学と連携し、市民が幅広い分野について学ぶことができる公開講座を開催する。
取組実績	<p>■北海道科学大学連携講座</p> <p>「VRで広がる新しい世界！eスポーツとプログラミング体験」</p> <p>3月24日（日）参加者14名（小学生）</p> <p>協力企業：㈱きたまいか（札幌市）、㈱三技協（神奈川県）</p>
成果	小学生を対象にeスポーツ、VR、アバターロボット、プログラミング体験講座を開設し、最新の情報技術に触れる機会をつくとともに、情報技術を使った様々な体験を通じて、情報技術の可能性を学ぶ機会を子どもたちに提供した。
課題	高等教育機関の知的技術と市民が求める知識、地域課題の解決につながる講座内容とを連動させた講座の企画を行っていく必要がある。
今後の方向性	北海道科学大学や民間企業などと連携して、充実した講座を開催していく。

項目	暮らしをデザイン2023の開催（継続）
目的	日々の暮らしや家庭環境の整え方を学び、家庭や学校、地域社会において、現代的課題の解決策を自らデザインしていくきっかけの場として講演や講座を開催する。
取組実績	<p>■暮らしをデザイン2023</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演名 「見える！わかる！できる！子育て世代のための片づけ講座」 ・開設日 9月16日（土）10:00～11:30 ・講師 ものとかぞく（整理収納アドバイザー） 水谷妙子 氏 ・会場 エコーセンター2000 視聴覚室 ・内容 整理と収納の基本的な考え方、整理収納のコツ、具体的な例（子どものおもちゃ、衣類、学用品）を交えたアイデア照会、家族と一緒に片づける環境の整え方などについての講話 ・参加者 54名
成果	子育て世代を対象に、暮らしや家庭環境を改善していくためのテーマを設定し、例年以上の参加者を得た。
課題	市民に関心を引くテーマや地域社会や現代的課題をテーマに取り入れ、講演・講座を企画していく必要がある。
今後の方向性	様々な生活課題や現代的課題に関する学習機会を設定し、市民生活の向上につなげていくための内容を研究していく。

(2) 子どものための学習や体験の場の提供

項目	放課後子ども教室推進事業（継続）
目的	子どもたちが放課後や週末を安全で安心して活動できる場を市内小学校区に開設し、市民団体の個性を活かしたプログラムを通じて、体験・交流を目的とした「子どもの居場所」の提供を行う。（通称：遊村あばしり）
取組実績	<p>実施主体：網走市放課後子ども教室推進事業実行委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設日 5月～翌年2月／平日15時～17時／休日10時～12時 ・開設数 304回 ・会場 市内8カ所（コミュニティセンターほか） ・指導者 市内5団体（指導者28名） ・内容 <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツライティング、トランポリン、キックベースボール、スポーツ教室 ②遊び、水泳、書道、読み聞かせ、学習支援ほか ③工作、ゲーム、折り紙、あやとり、学習支援ほか ④語学学習、工作ほか ⑤アート体験 ・参加数 152名（延2,109名）
成果	市民団体やNPO法人等が有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムを提供することにより、子どもたちの放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。
課題	国費補助の額が減少する中、教室の安定的な運営を図る必要がある。持続的な子どもの居場所を確保するため、指導者の確保・育成が必要である。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく。

項目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目的	子どもたちが、理科や数学などを体験的に学べる科学ブースを市民が企画し、ボランティアなどの支援を通じて一つのイベントとして運営することで、網走の子どもたちの科学する心を育む機会を提供する。
取組実績	<p>実施主体：網走市子どもフェスティバル実行委員会、網走市教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 7月9日（日）9:30～12:30 ・会場 オホーツク・文化交流センター エコーホール ・開催内容 体験コーナー10ブース、サイエンスショー ・参加者 260名 ・参加スタッフ 79名
成果	令和5年度は、10ブースの体験コーナーを設置し、多くの子どもたちに参加してもらい、理科や算数の原理を身近なものとして捉える機会を創出した。
課題	市民指導者、ボランティアスタッフの確保などの課題があり、東京農大の学生や理科や数学に関心のある市民ボランティアへの働きかけが必要である。
今後の方向性	他の社会教育事業との連動により、市民指導者・スタッフのさらなる育成、東京農業大学との連携などに努めながら取り組んでいく。

項目	ロセトクラブの開催（継続）
目的	子どもの余暇活動を支援するため、市民ボランティアの指導者により学習機会を提供し、子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	<p>■ロセトクラブ（単講座） 4月～翌年3月／41教室 参加者延451名 内 容：学習支援、工作、書道、パンづくりなど</p> <p>■ロセトクラブ（連続講座） 3月～翌年3月／7回 参加者延40名 内 容：ヴァイオリン教室</p> <p>指導者／子どもと遊ぼうボランティア隊9名</p>
成果	令和5年度は、ボランティア隊の積極的な企画運営により、41回の教室開催となり、多くの子どもたちに学習機会を提供することができた。
課題	市民ボランティアの主体的な企画運営としているため、開催時期や定員数などで指導者側と参加者側のニーズが異なることがある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項目	中学生、高校生への自習室開設（継続）
目的	オホーツク・文化交流センターの空き室を中学生・高校生の自主学習の場として開放することにより、青少年の居場所づくり、学力向上に資する。
取組実績	<p>① 5月27日（土）～28日（日）、6月3日（土）～4日（日） 利用者62名</p> <p>② 8月26日（土）～27日（日）、9月2日（土）～3日（日） 利用者27名</p> <p>③ 11月11日（土）～13日（月）、18日（土）～19日（日） 利用者54名</p> <p>④ 2月10日（土）～12日（日）、17日（土）～18日（日） 利用者40名</p> <p>・開設場所 オホーツク・文化交流センター 学習室・研修室（空室解放）</p> <p>・開設時間 午前9時～午後7時まで（中学生は午後6時まで）</p> <p>・利用対象 中学生、高校生（大学生、専門学校生は除く）</p>
成果	令和5年度は、市内中学・高校のテスト期間前の土・日曜日を基本に、4期の開設期間を設定し、市内各中学校・高校へ周知を図り空室を開放した結果、延183名の利用があった。（中学生利用24%、高校生利用76%）
課題	開放する部屋が満席となった場合は、必然的に図書館で学習する学生が増えることから、利用者が増加した場合の部屋確保が課題である。
今後の方向性	施設運営に支障のない範囲で利用者の要望を反映しながら今後も取り組んで行く。

項目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切にし、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	<p>・開催日 全8回（6/11、6/26、7/9、7/30、8/13、8/27、9/10、9/23）全て日曜日</p> <p>・会場 呼人スポーツ・トレーニングフィールド</p> <p>・内容 ウサギ、ハムスター、モルモット、ヒヨコ</p> <p>・参加者 1,713名（子ども794名、大人919名）</p>
成果	東京農業大学と連携し、事業を行っており、子どもにとって動物とのふれあいは、楽しく貴重な体験であり、情操の発達に役立っている。
課題	動物の負担や飼育状況を飼育委託先の団体と連絡調整しながら、開園手法を研究する必要がある。
今後の方向性	毎年、多くの市民が楽しみに来場されることから、今後も継続して実施する。

項目	子ども夢育事業（継続）
目的	中学生を対象に、夢や人生などをテーマとした講演を開催し、「夢を持って生きること」の大切さを学び、感性豊かな心を育むことで自分らしく生きる力を形成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 11月2日（木） ・会場 エコーセンター エコーホール ・講師 小平奈緒 氏（元平昌オリンピック金メダリスト） ・内容 生い立ちからオリンピック出場、その後のエピソードを通じて「自分がぶつかった留学中の言葉の壁」、「自分の考えを表現する力の大切さ」、「思い通りに行かないときの心の持ち方」など体験談を交えて、優しく説得力のある講話をいただいた。 ・参加者 295名（市内中学校2年生・教職員等）
成果	夢を持つこと、夢に向かって努力することの大切さなどを、講師の体験談を通じて学習することで、中学生が人生において大切なことを学ぶ機会となった。
課題	講師選定や開催時期、場所などについて学校と連携して取り組む必要がある。
今後の方向性	学校と連携し、効果的な開催手法を研究しながら事業を進めていく。

項目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目的	子ども（小学生）の夏休み、冬休みの活動を支援するとともに、創造性や探求心を育む教室を開催し、子どもの個性や自主性を向上させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■夏休み教室（5教室、全7回、参加者60名） <ul style="list-style-type: none"> ①「ハートのピザパンを作って食べよう」7/24 参加者7名 ②「ソーセージのぐるぐるパンを作ろう」7/25 参加者10名 ③「ぱっかーん幸せはじけるくす玉作り」7/25 参加者9名 ④「ひんやりフラワーゼリーを作ってみよう」8/5 参加者10名（①5名、②5名） ⑤「マジック・ソードファクトリー」8/6 参加者24名（①12名、②12名） ■冬休み教室（5教室、全7回、参加者50名） <ul style="list-style-type: none"> ①「四文字熟語やことわざを書いてカレンダーを作ろう」12/23 参加者3名 ②「マジックポーションファクトリー」12/24 参加者15名（①8名、②7名） ③「オリジナルカレンダーを作ろう」1/5 参加者13名 ④「きらきらせっけんファクトリー」1/13 参加者18名（①10名、②8名） ⑤「ガールスカウト体験会」1/14 参加者1名
成果	市民講師の協力を得て、夏休み・冬休みに子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課題	夏休み・冬休み時期に、市民講師の協力を得て、多様な体験教室を企画提供する必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休みでの多様な学習プログラムを今後も検討していく。

(3) 学習成果を還元する機会の充実

項目	学校支援地域本部事業の実施（継続）																																										
目的	子どもたちの教育のために役に立ちたいとの思いを持つ市民ボランティアと学校のニーズをマッチングさせ、家庭・学校・地域が一体となって子どもを育てる体制を整える。																																										
取組実績	<p>実施主体：網走市学校支援地域本部事業実行委員会</p> <p>登録件数 個人 169名 団体 21団体</p> <table border="1"> <tr> <td>支援内容</td> <td>学習支援活動</td> <td>13校</td> <td>59件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>790名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>部活動指導補助</td> <td>2校</td> <td>2件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>169名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境整備支援</td> <td>2校</td> <td>2件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>登下校安全指導</td> <td>7校</td> <td>7件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>2,079名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学校行事補助</td> <td>4校</td> <td>4件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他の支援</td> <td>6校</td> <td>8件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>286名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計（延数）</td> <td>34校</td> <td>82件</td> <td></td> <td>3,377名</td> </tr> </table>	支援内容	学習支援活動	13校	59件	ボランティア延数	790名		部活動指導補助	2校	2件	ボランティア延数	169名		環境整備支援	2校	2件	ボランティア延数	28名		登下校安全指導	7校	7件	ボランティア延数	2,079名		学校行事補助	4校	4件	ボランティア延数	25名		その他の支援	6校	8件	ボランティア延数	286名		合計（延数）	34校	82件		3,377名
支援内容	学習支援活動	13校	59件	ボランティア延数	790名																																						
	部活動指導補助	2校	2件	ボランティア延数	169名																																						
	環境整備支援	2校	2件	ボランティア延数	28名																																						
	登下校安全指導	7校	7件	ボランティア延数	2,079名																																						
	学校行事補助	4校	4件	ボランティア延数	25名																																						
	その他の支援	6校	8件	ボランティア延数	286名																																						
	合計（延数）	34校	82件		3,377名																																						
成果	平成20年度の実施以来、事業についての市民、教員の理解も進み、活動が定着している。																																										
課題	学校からの要望に対応できる体制の整備とボランティアの登録育成																																										
今後の方向性	市内全小中学校（15校）及び養護学校（1校）で事業を活用しており、コミュニティスクールと連携を図りながら、推進体制を構築していく。																																										
項目	まちの達人出前事業の実施（継続）																																										
目的	豊富な経験や知識・技能をもつ市民の方が、その力を学校からの依頼のもと、授業講師として活かすとともに、講師の謝金を支援し、生涯学習の推進を図る。																																										
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 市内小中学校の授業 ・要件 1校あたり原則4回を上限とする。授業時間は、1回2時間程度とする。 ・支援内容 講師謝金（5千円）を支援する。 ・事業実績 10校21件 市民講師 7名2団体 ・教科内容 総合的学習10件、家庭科2件、体育6件、美術1件、理科2件 																																										
成果	総合的な学習の時間などを中心に、伝統文化やマナー講座、防災や性の授業など、各分野に精通した市民講師が活用された。																																										
課題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。																																										
今後の方向性	学校職員への周知に努めるとともに、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。																																										

3 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項目	家庭教育学級、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目的	家庭生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活、家庭教育環境づくりを支援する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭教育学級 <ul style="list-style-type: none"> ・市街区（当番校：第二中学校） 12月5日（火）「コミュニケーションが深まるストレッチ教室」 スポーツクラブ PHYSIT トレーナー 船橋真咲 氏 参加者 19名 ・郊外地区（当番校：白鳥台小学校） 12月8日（金）「『奇跡』を伝える～家庭で伝える性（いのち）のお話～」 思考の冒険代表 うめさん（御厩京香）氏 参加者 72名 ■家庭教育フォーラム兼網走市父母と先生の会連合会研究大会 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 10月7日（土）9:30～11:30 ・会場 エコーセンター2000 エコーホール ・参加者 130名 ・講演 「家庭・学校・地域で子どもを伸ばすには ～子どもに関わる大人たちが知っておくべきこと～」 ・講師 教育評論家 親野智可等 氏
成果	令和5年度家庭教育フォーラムでは、教育評論家の親野智可等氏を招き、子どもを伸ばす教育法についての学習機会を提供した。
課題	学校や父母と先生の会連合会などとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、趣旨を充分伝え、父母と先生の会連合会などの市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施していく。
項目	幼児を育てる親の子育て講演会（継続）
目的	ライフスタイルの多様化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てる環境が変化している中、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い不安の解消に努める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■保育従事者向け講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 7月6日（木）19:00～20:30 ・講演名 「保育・幼児教育に活かす認知行動療法」 ・講師 北海道医療大学教授 富家直明 氏 ・参加者 42名 ■保護者向け講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 7月7日（金）10:00～11:30 ・講演名 「子育てに活かす認知行動療法」 ・講師 北海道医療大学教授 富家直明 氏 ・参加者 67名（会場45名、オンライン22名） 託児15名
成果	子育て支援課との連携事業として「保育従事者向け講演会」と「保護者向け講演会」との2講演を実施しているほか、保護者向け講演会ではオンラインを活用したハイブリット形式での講演会とし、実施している、また、託児も行い受講環境を整えている。
課題	子育ての不安などを解決できるような講座内容を検討し、開設方法を研究していく。
今後の方向性	子育て支援課など関係機関と連携し、幼児教育の環境づくりの充実を図っていく。

(2) 子どもを育む地域力育成の支援

項目	網走市子ども会育成連合会への支援（継続）
目的	市内の子ども会活動を支援し、地域が子どもを見守り育む取組を支援する。
取組実績	<p>実施主体：網走市子ども会育成連合会</p> <p>■サマーキャンプの開催（育成者研修会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 8月19日（土）～20日（日）1泊2日 ・会場 道立オホーツク公園（てんとらんど） ・参加者 79名（子ども46名、育成者・ボランティア33名） <p>■網走市子ども大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 12月3日（日）10：30～14：00 ・会場 北コミュニティセンター ・内容 チャレンジランキング、クッキング体験、ラジオ体操表彰式他 ・参加者 101名（子ども44名、保護者32名、ボランティア・スタッフ32名） <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操カードの配布、斜網地区子ども会育成連絡協議会活動への参加
成果	子ども会連合会の活動として定着している「サマーキャンプ」、「網走市子ども大会」などの開催を通じて、地域が子どもを見守り育む活動を実施した。
課題	少子高齢化や町内会活動の停滞などにより、市内各地域の子ども会活動が休止または停滞してきていることから、子ども会として地域においてどのような活動が必要か検討していく必要がある。
今後の方向性	地域が子どもを見守り育む活動を支援し、子どもの健全育成に取り組んでいく。

項目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目的	子どもたちの豊かな心を育てるための啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	<p>実施主体：網走市豊かな心を育てる活動推進会議</p> <p>■豊かな心を育てる小中学生の意見発表会</p> <p>「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」などをテーマに、自分の考えや体験したことを発表する機会を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 1月27日（土）13：30～15：00 ・会場 エコーセンター エコーホール ・参加者 市内小中学校代表 児童・生徒15名（小学生9名、中学生6名） ・来場者 150名 <p>■啓発活動、標語募集</p> <p>「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「家族」「働くこと」の各テーマから選んだ標語を募集し、入選30作品を活用したカレンダーを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募数：1,123点（内オンライン応募数911点（88.2%）） ・カレンダー作成：2,000枚（市内関係機関に配布）
成果	意見発表会の開催を通じて、少年の主張オホーツク管内大会への網走市代表者の選考を行うほか、標語の募集・周知を通じて子どもたちの豊かな心の育成に繋げて行く取組を支援した。
課題	小学校低学年の標語入選者数が少ないといった課題があることから、募集方法・入選者選考方法などに工夫を図る必要がある。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取組であり、今後も推進していく。

4 芸術文化

(1) 文化活動の促進

項目	芸術文化合宿誘致事業への支援（拡充）
目的	芸術文化団体の合宿受け入れを行い、市民との交流推進と芸術文化の向上を目指す「芸術文化合宿実行委員会」が行う事業に助成を行い、芸術文化活動の拠点となる体制づくりを進める。
取組実績	<p>実施主体：網走市芸術文化合宿実行委員会</p> <p>【令和5年度受入団体】</p> <p>①川崎ドラム教習所（神奈川県川崎市）5/19（金）～22（月）4日間 受入人数9名（延27泊）、ドラムセミナー・合同演奏会開催</p> <p>②札幌大谷大学芸術学部美術学科（札幌市）6/29（木）～7/1（土）3日間 受入人数13名（延26泊）、写生合宿・成果発表会</p> <p>③山中能舞台（大阪府大阪市）8/14（月）～18（金）5日間 受入人数3人（延11泊）、能体験セミナー開催</p> <p>④東京農業大学全学応援団（東京都世田谷区）9/2（土）～10（日）9日間 受入人数14名（延112泊）、応援練習合宿・サンゴ草まつりでの成果発表</p> <p>⑤人形劇団プーク（東京都新宿区）10/7（土）～11（水）5日間 受入人数7名（延27泊）、人形づくり講座開催・人形劇公演</p> <p>⑥旭川商業高校吹奏楽部（旭川市）2/2（金）～2/3（土） 受入人数59名（延59泊）、演奏会開催</p> <p>⑦Trombone Quartet Beeeans（東京都）2/1（木）～4（日） 受入人数4名（延6泊）、演奏会開催</p> <p>【令和5年度合宿誘致・PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：11/7（火）～8（水）1泊2日 ・訪問先：旭川商業高校（旭川市）、旭川明成高校（旭川市）、北海道文教大学（恵庭市）、札幌大谷大学（札幌市）、HBCジュニアオーケストラ（札幌市）
成果	コロナ開けの令和4年度よりプロモーション活動を再開し、令和5年度は受入支援の充実を図り7団体の受入を行い、演奏会や成果展など市民交流を促進した。
課題	芸術文化団体の合宿地として定着するためには支援体制の整備と合宿先として選択されるための魅力ある資源の確保とPR活動が必要である。
今後の方向性	プロモーション活動を継続的に行い、文化芸術団体の合宿誘致につなげる取組を行うとともに、支援体制の整備や網走の魅力発信に取り組んでいく。
項目	オホーツク・アートセミナー事業の支援（継続）
目的	市民に音楽や美術に関する質の高い優れた表現技法を専門講師から学ぶ機会を提供し、市民の芸術文化活動の活性化を図る。
取組実績	<p>実施主体：オホーツク・アートセミナー実行委員会</p> <p>■音楽セミナー（8団体） 網走小（6/9、8/1）、第一中（5/26、6/22、7/6、7/26、7/31）、第二中（5/22、7/29、8/2、8/4、8/5）、第三中（6/17、6/21、7/2、7/8、7/24）、桂陽高（7/8、7/26、8/1、12/19、1/8、1/11、1/17）、南高（7/16、10/7）、網走（8/3）、合唱団あばしり（12/2）</p> <p>■美術セミナー デザイン講座（12/2、12/3）、描画講座（3/23、3/24）</p>
成果	令和5年度は、市内小中高の吹奏楽部、音楽・合唱団で音楽セミナーを計28教室開催した他、美術館にて4回の美術セミナーを開催し、文化芸術の振興を図った。
課題	限られた予算内で、より多くの文化芸術団体へ講師を派遣し、文化芸術の振興を図る必要がある。
今後の方向性	オホーツク・アートセミナー実行委員会への事業支援を通じて、引き続き市内芸術文化団体の活性化を推進する取組を継続する。

項目	文化団体の活動支援（継続）
目的	市内文化団体で構成される網走市文化連盟が、広く市民対象に行う郷土文化振興事業に対して助成することにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	<p>実施主体：特定非営利活動法人網走市文化連盟</p> <p>■第59回網走芸術祭（9～11月）</p> <p>①市民華道展 9/13（金）</p> <p>②市民盆栽展 9/27（金）～29（日）</p> <p>③市民書道・俳句・絵画展 10/14（月）～22（日）</p> <p>④あばしり子ども創作作品展 10/26（日）～11/10（日）</p> <p>⑤市民舞台発表会 10/26（土）</p> <p>⑥市民音楽祭 10/27（日）</p> <p>⑦呈茶サービス 10/27（日）</p> <p>⑧あばしり映画祭 11/9（土）～10（日）</p> <p>■文化功労者顕彰式 11/3日（日・祝）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網走芸術賞：磯江良三（俳句：網走十七美会） ・網走芸術奨励賞：細谷 博（絵画：全日本美術協会網走支部） ・網走芸術奨励賞：女性コーラス コール・ドルチェ（合唱：網走合唱連盟）
成果	市内文化団体の発表の場となる展示会、舞台発表会などを開催し、市民の文化活動の振興を図ったほか、永年、文化活動に従事し、文化振興に貢献した市民の表彰を実施した。
課題	文化団体の高齢化、文化連盟事業の持続性についての課題があり、文化連盟内で議論協議が行われている。
今後の方向性	市民の文化活動の振興・発展のため、文化連盟の意向を確認し、必要な支援を今後も継続していく。

項目	文化芸術振興褒奨金事業（継続）
目的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	<p>【令和5年度実績】</p> <p>■網走南ヶ丘高等学校 演劇部 （報奨額 202,500円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第69回全国高等学校演劇大会出場 7/30～8/1（鹿児島市） <p>■女性コーラス・コールドルチェ （報奨額 270,000円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第46回全日本おかあさんコーラス全国大会出場 8/26～29（姫路市）
成果	市内高等学校及び市内女性コーラスグループの全国大会出場に対し、報奨金を支出し、その活動の支援を行った。
課題	「網走市文化芸術申告報奨金制度」を広く活用してもらうため、広報などが必要。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、報奨金制度について広く広報PRを図る。

(2) 鑑賞機会の充実

項目	あばしりファミリー劇場の開催支援（継続）
目的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する「あばしりファミリー劇場実行委員会」が行う事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、感性豊かな人格形成をめざす。
取組実績	<p>■人形劇団ブーク「ピーターとおおかみ、わにがまちにやってきた」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 10月9日（月・祝）14:00～15:15 ・会場 市民会館 大ホール ・入場料 一般500円（4歳以上） ・入場者数 275名
成果	平成29年の公演以来5年ぶりに東京の劇団による人形劇公演を実施し、親子で舞台芸術を鑑賞する機会を提供できた。
課題	市民の実行委員会による効率的で安定した企画運営が必要。
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民実行委員会で運営方法を検討しながら実施しており、引き続き支援を行う。
項目	アトリウムロビーコンサートの開催（継続）
目的	エコーセンター2000の来館者に気軽な鑑賞機会を提供し、市内の音楽活動家や団体の活動発表の場となるよう、アトリウムロビーを活用したコンサートを開催する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ①網走吹奏楽団 4/29（土）11:30～12:30 聴衆数100名 ②琴伝流大正琴 琴萌会 せせらぎサークル 5/27（土）11:30～12:30 聴衆数80名 ③オホーツク岳風会網走支部 6/17（土）11:30～12:30 聴衆数50名 ④網走はまなす女声合唱団 9/16（土）11:30～12:30 聴衆数80名 ⑤網走うたう会 9/29（土）11:30～12:30 聴衆数50名 ⑥しゃ～みん♪ 11/11（土）11:30～12:30 聴衆数80名 ⑦女声コーラス コール・ドルチェ 11/18（土）11:30～12:30 聴衆数110名 ⑧網走小学校ブラスバンド 12/9（土）11:30～12:30 聴衆数50名 ⑨寛二 with 何楽会 12/16（土）18:00～19:00 聴衆数60名 ⑩網走のシンガーソングライター伊藤正範 2/17（土）11:30～12:30 聴衆数40名 ⑪Jet MELODY HOUSE 潮見教室 ミニコンサート 3/16（土）11:30～12:30 聴衆数90名
成果	令和5年度は、11の団体・個人のロビーコンサートが開催され、音楽や合唱などの愛好者の発表機会場の場となり、市民にも音楽などに気軽に触れる機会を提供できた。
課題	より多くの市民音楽家や団体、サークルが活動成果の発表の場となるよう、市民周知と合わせ、活動機会の醸成を図っていく必要がある。
今後の方向性	市民音楽家や団体、サークルが気軽に活動成果を発表できるよう、情報提供を行う。

項 目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の開催（継続）
目 的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れ、オホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	<p>①THE JAZZ AVENGERS 1st Album Release Tour 2023 （ジャズコンサート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 6月17日（土）17:00～19:20 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・出演者 THE JAZZ AVENGERS ・入場料 一般3,000円、高校生以下1,500円（当日券各500円増） ・入場者数 407名 ・市民協力 ホールボランティア15名、ちばしり倶楽部6名（市民企画団体） <p>②AUN J クラシック・オーケストラ CONCERT 2023 （和楽器コンサート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 8月20日（土）15:00～17:00 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・出演者 AUN J ・入場料 一般3,000円、高校生以下1,500円（当日券各500円増） ・入場者数 374名 ・市民協力 ホールボランティア14名、和楽器を楽しむ会9名（市民企画団体） <p>③桂 三段 独演会 （落語公演）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 9月12日（火）18:30～20:00 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・出演者 桂 三段（落語家） ・入場料 一般500円（当日券300円増） ・入場者数 131名 <p>④土田英順チェロコンサート（東日本大震災チャリティコンサート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 11月18日（土）11:00～12:00 ・会 場 エコーセンター アトリウムロビー ・出演者 土田英順（チェロ奏者） ・入場者 80名 ※入場料無料（募金箱設置） ・市民協力 ホールボランティア1名
成 果	令和5年度は市民企画提案事業を2公演実施し、多くの来場者につながり、市民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供することができた。
課 題	市民ニーズの把握を行い、優れた芸術鑑賞の提供を行うため、市民の企画提案を取り入れながら事業の推進を図る。
今後の方向性	ホールボランティアや市民企画団体など、市民との協働により事業運営を図り、優れた芸術鑑賞機会を市民に提供する。

項目	クラシック音楽鑑賞会事業の開催支援（拡充）
目的	網走にふさわしい芸術文化の創造を目指し、クラシック音楽活動の振興を図るとともに、優れたクラシック音楽の鑑賞事業を推進し、鑑賞機会の拡充に努め、積極的な音楽活動の促進と芸術文化の発展を目指す。
取組実績	<p>■弦楽アンサンブル「石田組」網走公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 10月14日（土）開場 13:30 開演 14:00 ・会場 市民会館 大ホール ・入場料 （一般）3,500円、（高校生以下）1,000円（当日券各500円増） ・出演者 石田組 10名 ・入場者数 650名 ・演奏曲目 ルーマニア民族舞曲、川の流れのように他 <p>■青少年音楽教室</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ドラム教室（川崎ドラム教習所講師） 5/20（土）市民ドラムセミナー、市民38名 5/21（日）合同演奏会、市内小中高生90名 ②音楽教室（THE JAZZ AVENGERSメンバー） 6/16（金）合奏演奏セミナー、市内高校生58名 ③フルート教室（谷藤万喜子氏） 9/14（木）、9/16（土）、9/19（火）、市内中高生10名 ④ヴァイオリン教室（石田泰尚氏、江口心一氏） 10/12（木）、市内小中高生7名
成果	芸術文化事業やクラシック音楽鑑賞会事業、芸術文化合宿で網走を訪れた一流のアーティストに講師を依頼し、市内小中高生を対象とした各種音楽教室を開催した。
課題	優れたクラシック音楽の鑑賞機会を市民に提供するために、実行委員会を中心に様々なジャンルのクラシック音楽団体・個人の情報を得るとともに、計画的かつ効果的な鑑賞機会をつくっていく必要がある。
今後の方向性	優れたクラシック音楽の鑑賞機会を提供し、市民の芸術文化意識の向上と芸術文化の振興を図っていく。

項目	にじいろ音楽祭の支援（継続）
目的	障がい者への学習支援体制の整備に取組、障がい者の社会活動を支援する。
取組実績	<p>実施主体：にじいろ音楽祭実行委員会</p> <p>■にじいろ音楽祭2023</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 12/3（日）10:00～12:00 ・開催開場 エコーセンター アトリウムロビー ・来場者数 120名 ・内容 しゃ～みん♪、日体大高等支援学校、クリオネ手話っち他出演
成果	網走市障がい者福祉協会が主催する「にじいろ音楽祭」の取組を支援し、障がい者の社会活動の支援を行った。
課題	障がい者の社会活動を支援する仕組みづくりと体制づくりが必要である。
今後の方向性	障がい者の社会活動を一層支援するための取組を検討していく。

(3) 美術館の充実

①所蔵作品の展示

項目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする所蔵作品の展示（常設展）（継続）
目的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 293日 観覧者数 高校生以上 3,913人 中学生以下 291人 合計 4,204人
成果	郷土出身作家や地縁作家の作品を公開することができた。
課題	作家の紹介など、展示方法の改善についての検討が必要である。
今後の方向性	今後も郷土出身作家等の作品収蔵に努め所蔵作品の充実を図り広く郷土作家を紹介していく。

項目	所蔵作品展（継続）
目的	美術館所蔵作品を特別展示し広く紹介する。
取組実績	・会 期 所蔵作品展 4月6日～4月23日(16日) 高橋道雄小品展 6月8日～7月2日(22日) 夏の所蔵版画展 8月10日～9月3日(22日) ・観覧者数 高校生以上262人 小中学生以下22人 合計284人
成果	所蔵作品と資料（写真）の展覧会に多くの観覧者が訪れた。
課題	特になし。
今後の方向性	常設展に加えテーマを決めて所蔵作品を広く紹介していく。

②企画展の開催

項目	『子ども美術展』の開催（新規）
目的	ワークショップで児童生徒が描いた作品を額装して展示紹介する。
取組実績	・会 期 5月7日～5月31日(21日間) ・観覧者数 高校生以上153人 小中学生以下152人 合計305人 ・関連事業 子ども美術展ワークショップ(53人)
成果	子ども自らが描いた作品が額装され展示されることで多くの観覧者があった。
課題	特になし。
今後の方向性	自分の手で素材や画材を使う講座などは継続していく。

項目	荒井コレクション『川瀬巴水展』の開催（新規）
目的	授業で取り上げられている木版画、浮世絵と現代を結ぶ木版画家を紹介する。
取組実績	・会 期 9月14日～11月5日(46日間) ・観覧者数 高校生以上2,597人 小中学生以下95人 合計2,692人
成果	網走市近隣だけでなく、旭川・帯広・釧路・北見などから多くの観覧者があった。
課題	多くの観覧者があった場合の駐車場、監視体制の充実
今後の方向性	これからも話題性のある優れた作品を展示していきたい。

項目	-『雀夏展』- 牛の歩み、犀のツノ。 -（新規）若手アーティスト作品展示事業
目的	網走出身のイラストレーターの作品を展示し、若いアーティストを応援する。
取組実績	・会 期 2月9日～3月3日(20日間) ・観覧者数 高校生以上312人 小中学生以下24人 合計336人
成果	イラストレーションの好きな中高生が多く訪れた。
課題	中高生などの興味関心を高める作家選定が必要である。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していく。

項目	『高橋道雄の見た巴里』（写真展）（新規）
目的	郷土出身の洋画家・高橋道雄の取材した中での写真資料を展示し、高橋道雄が見た当時の風景を紹介する。
取組実績	・会 期 3月9日～4月7日（25日間） ・観覧者数 高校生以上308人 小中学生以下9人 合計317人
成果	郷土出身作家を紹介できた。
課題	特になし。
今後の方向性	今後も郷土作家の作品資料についても紹介していく。

③移動展の開催

項目	第64回北海道書道展 網走移動展の開催（継続）
目的	第64回北海道書道展の移動展を開催し、書道作品を広く紹介することで、『書写』から芸術表現での『書』への移行を紹介する。
取組実績	・会 期 7月12日～7月30日（17日間） ・観覧者数 高校生以上206人 小中学生以下16人 合計222人 ・関連事業 解説会・揮毫会 7月16日 36人
成果	道内最大級の書による公募展作品を紹介できた
課題	高校生などの書道作品の展示や著名な書家の作品展示の検討が必要である。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項目	第70回写真道展 網走移動展（継続）
目的	北海道内の写真公募展である『第70回写真道展』移動展を開催し、写真作品の鑑賞機会を提供する。
取組実績	・会 期 12月16日～1月14日（21日間） ・観覧者数 高校生以上100人 小中学生以下11人 合計111人 ・関連事業 解説会・佐々木砂宗さん 12月17日 6人
成果	道内最大級の写真公募展を紹介できた。
課題	市内から写真道展への出品が少なく、鑑賞者が伸び悩む状況であり、関心を高めるための普及事業や広報活動などの取組が必要
今後の方向性	写真の普及のため継続して、移動展を開催していく。

④講座・教室の実施

項目	オホーツク・アートセミナー（美術部門）の支援（継続）
目的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術への関心を高めるとともに、技術の向上を図る。
取組実績	デザイン講座（仕掛け絵本制作） 12月2日・3日 参加者 17名 描画講座（油彩作品を描く） 3月23日・24日 参加者 17名
成果	豊富なアイデアから仕掛け絵本が出来た。 描画の中で、素描から油絵への技法を学べた。
課題	特になし
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項目	消しゴムハンコワークショップ（新規）
目的	版画の技法である多版多色の技法を彫り易い消しゴムハンコで体験する。
取組実績	ワークショップ 10月8日 参加者 4名
成果	参加者は多版多色の技法を理解することができた。
課題	特になし
今後の方向性	展示作品の理解や、創作活動を促すために継続していく。

項目	美術館講座『油絵入門講座』（継続）
目的	美術への関心を高めるとともに、初心者から技術の向上を目指す。
取組実績	油絵入門講座） 2月11日・25日 3月10日・17日（連続4回） 延べ参加者 35名
成果	鉛筆での素描から油彩作品へのプロセスを学んだ。
課題	特になし
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項目	出張美術館の実施（継続）																																																				
目的	学校等に出張して作品を展示、鑑賞してもらうことで、児童・生徒・学生の美術に対する興味・関心の高揚を目指す。																																																				
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>第二中学校</td> <td>6月2日～6月9日（8日間）</td> <td>181人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第五中学校</td> <td>6月9日～6月20日（12日間）</td> <td>50人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東小学校</td> <td>7月12日～7月19日（8日間）</td> <td>75人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>南小学校</td> <td>8月22日～8月29日（8日間）</td> <td>271人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第五中学校</td> <td>9月6日～9月15日（10日間）</td> <td>50人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中央小学校</td> <td>9月20日～9月28日（9日間）</td> <td>196人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走小学校</td> <td>10月4日～10月11日（17日間）</td> <td>279人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>西小学校</td> <td>10月17日～10月20日（4日間）</td> <td>137人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>白鳥台小学校</td> <td>10月24日～10月31日（8日間）</td> <td>56人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第三中学校</td> <td>11月1日～11月10日（8日間）</td> <td>306人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第四中学校</td> <td>11月15日～11月30日（16日間）</td> <td>75人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大空町女満別中学校</td> <td>12月5日～12月12日（8日間）</td> <td>166人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>呼人小中学校</td> <td>1月23日～2月2日（11日間）</td> <td>42人</td> <td>合計 1,884人</td> </tr> </table>	第二中学校	6月2日～6月9日（8日間）	181人		第五中学校	6月9日～6月20日（12日間）	50人		東小学校	7月12日～7月19日（8日間）	75人		南小学校	8月22日～8月29日（8日間）	271人		第五中学校	9月6日～9月15日（10日間）	50人		中央小学校	9月20日～9月28日（9日間）	196人		網走小学校	10月4日～10月11日（17日間）	279人		西小学校	10月17日～10月20日（4日間）	137人		白鳥台小学校	10月24日～10月31日（8日間）	56人		第三中学校	11月1日～11月10日（8日間）	306人		第四中学校	11月15日～11月30日（16日間）	75人		大空町女満別中学校	12月5日～12月12日（8日間）	166人		呼人小中学校	1月23日～2月2日（11日間）	42人	合計 1,884人
第二中学校	6月2日～6月9日（8日間）	181人																																																			
第五中学校	6月9日～6月20日（12日間）	50人																																																			
東小学校	7月12日～7月19日（8日間）	75人																																																			
南小学校	8月22日～8月29日（8日間）	271人																																																			
第五中学校	9月6日～9月15日（10日間）	50人																																																			
中央小学校	9月20日～9月28日（9日間）	196人																																																			
網走小学校	10月4日～10月11日（17日間）	279人																																																			
西小学校	10月17日～10月20日（4日間）	137人																																																			
白鳥台小学校	10月24日～10月31日（8日間）	56人																																																			
第三中学校	11月1日～11月10日（8日間）	306人																																																			
第四中学校	11月15日～11月30日（16日間）	75人																																																			
大空町女満別中学校	12月5日～12月12日（8日間）	166人																																																			
呼人小中学校	1月23日～2月2日（11日間）	42人	合計 1,884人																																																		
成果	多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供できた。																																																				
課題	今後も、実施時期・期間について、学校との調整を充分に行う必要がある。																																																				
今後の方向性	今後も継続して多くの学校で開催していく。																																																				

項 目	研修等の受入（継続）
目 的	職場体験や校外学習の受入を行い美術館を身近に感じてもらう機会を設け、美術活動の普及拡大を目指す。
取組実績	講座 高校生オープン講座 通 年 8名 見学 若葉幼稚園、東京農業大学、第二中学校、札幌大谷大学、クリオネ学級、 第五中学校、網走商工会議所、網走幼稚園、今日職員互助会、西小学校など 博物館実習 9月1日～13日（9日間） 9名 研修 第二中学校職場体験 7月12日 6名
成 果	多くの鑑賞者、研修の受入を行い、美術館を広く知ってもらう機会となった。
課 題	特になし。
今後の 方向性	今後も鑑賞学習や職場体験などを積極的に受入していく。

(4) 博物館の充実

項目	特別企画展「網走の戦後の暮らし展」の開催（新規）
目的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和6年2月1日～3月31日 ・入場者：1,280名 ・関連事業：展示説明会 2月4日 参加者：16名
成果	戦後復興を遂げた昭和20～30年代の網走の街の様子を紹介できた。
課題	小中学生の見学機会の増加のため、学校との連携が必要
今後の方向性	網走の歩みをテーマとして開催し、市民が郷土の歴史を見つめ直す機会とする。

項目	剥製標本作製（継続）
目的	網走の自然資料を通して、郷土を身近に学び親しむ場を提供する。
取組実績	・剥製標本作製 マムシ、マフグの剥製2点（博物館展示）
成果	実物の自然資料の収集・公開によって、郷土の自然の豊かさを伝えた。
課題	限られたスペースでの展示方法の研究が課題
今後の方向性	郷土の自然資料の収集・整理及び資料修理等をすすめる。

項目	特別企画展「夜のいきもの展」の開催（新規）
目的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和5年8月1日～9月30日 ・入場者：1,489名 ・関連事業：夜の昆虫観察会 8月11日 参加者：42名 展示説明会 8月20日 参加者：18名
成果	網走地域に生息する動物の夜の生態について紹介できた。
課題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要
今後の方向性	網走の自然に触れる機会として、テーマを変えながら開催していく。

項目	博物館展示物PR動画作成事業（新規）
目的	代表的な展示資料の紹介を通して、博物館・モヨロ貝塚館のPRを図る。
取組実績	・博物館PR動画「北の文化の灯台」の制作・公開（令和6年3月公開） ・モヨロ貝塚館PR動画「オホーツク文化の狩猟」の制作・公開（令和6年3月公開）
成果	両施設をPRする動画を公開し、広くアピールすることができた。
課題	誘客を促す動画構成等の研究が重要
今後の方向性	従来の紙媒体の広報手段との連携を図りながら、一層のPRを進めていく。

項 目	モヨロ貝塚館改修事業（新規）
目 的	モヨロ貝塚館の改修を行い、博物館機能の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・モヨロ貝塚館展示室の壁面展示の改修 ・モヨロ貝塚の野外園路の修繕
成 果	モヨロ文化を伝える施設として一層の充実が図られた。
課 題	今後とも施設環境の定期的な点検・整備が必要
今後の 方向性	適正な維持管理に努め、モヨロ文化を伝える施設として充実を図っていく。

5 文化財

(1) モヨロ貝塚の保護と活用

項目	モヨロ貝塚PR事業（継続）
目的	モヨロ文化のPRを図り、街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動の充実（ホームページ、新聞・雑誌等での案内、案内チラシ配布） ・ 案内看板設置（道路等 10 箇所、空港電照看板）及び、出土品展示（市内外 7 箇所） ・ モヨロカレッジの開講（モヨロ文化に係る講義と体験学習の全 4 講座） <ul style="list-style-type: none"> 講座 1 「モヨロ人の動物レプリカづくり」 7 月 1 日 参加者：9 名 講座 2 「モヨロ人の土器づくり」 8 月 5 日 参加者：11 名 講座 3 「モヨロまつり」 9 月 16 日 参加者：480 名 講座 4 「モヨロ文化市民講座」 10 月 15 日 参加者：56 名 <p style="margin-left: 40px;">テーマ：モヨロのビーナスと動物像 講師：高橋 健氏（横浜ユーラシア文化館学芸員）</p>
成果	モヨロカレッジとしてモヨロ文化を総合的に学ぶ機会を提供できた。
課題	各種の広報活動の検討と観光機関等との一層の連携が必要
今後の方向性	多様な広報活動を一層すすめ、幅広い年代へのモヨロ文化の周知を図っていく。

項目	モヨロ貝塚館 10 周年記念事業（新規）
目的	モヨロ貝塚館リニューアル 10 周年を迎え、最新の研究成果の紹介展示を通して、モヨロ文化の価値を改めてアピールする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ モヨロ文化の最新成果の特別展の開催 11 月 1 日～12 月 28 日 見学者：842 名 ・ 新展示資料の追加 北大所蔵の骨製バックル等複製品（3 点）の制作・展示
成果	最新の研究成果と新資料の展示によって、モヨロ文化の魅力をアピールできた。
課題	展示手法の継続的な調査・研究が重要
今後の方向性	最新成果をふまえた展示更新に努め、モヨロ貝塚館の価値を高めていく。

6 スポーツ

(1) スポーツ施設の整備、利用促進

項目	総合体育館の整備（拡充）
目的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	第2・3体育室屋上の防水改修、トレーニング室のスミスマシン購入
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の老朽化が進んでおり、施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	陸上競技場の整備（拡充）
目的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	陸上競技場器具倉庫の更新
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	トラック舗装の摩耗等が進んでおり、施設の改修や必備用具の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	漕艇場の整備（拡充）
目的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	公認B級の要件を満たすコース増設及び付帯設備の整備
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。 令和5年度全国高等学校総合体育大会ボート競技大会を開催した。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	市民健康プールの整備（拡充）
目的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	空調設備の改修、水槽内防水塗装工事
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	スポーツ・トレーニングフィールドの整備（拡充）
目的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	ゴーカートの購入
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

(2) スポーツ活動の促進

項目	各種スポーツ教室の開催（継続）
目的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民硬式テニス教室 5名 6日間 延 29名 ・市民バドミントン教室（秋） 15名 6日間 延 76名 ・市民バドミントン教室（冬） 15名 6日間 延 73名 ・市民スキー教室 40名 4日間 延 114名 ・冬休みスケート教室 22名 4日間 延 74名 ・初心者スノーボード教室 12名 4日間 延 43名
成果	子どもから大人まで各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験することができる教室として好評を得ている。
課題	参加者が少ない種目については、そのあり方についての検討が必要である。
今後の方向性	市民ニーズに対応するため、種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に努める。

項目	いきいき健康体力づくり教室の開催（継続）
目的	高齢者が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 教室を開催（教室によって実施回数が異なる） 参加者数 22 名 16 回実施 延 231 名
成果	高齢者の体力維持、健康づくりという点で毎年参加者から好評を得ている。
課題	高齢者が、安全で理解しやすく、一年を通して継続して参加できる教室内容とすることが必要である。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新種目の検討、運営のノウハウを研究しながら継続する。

項目	オホーツク歩くスキーの集いの開催（継続）
目的	市民が気軽に楽しめる冬のスポーツ行事の開催
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和 6 年 2 月 18 日（日） ・会場 道立オホーツク公園「てんとらんど」 ・参加者数 67 名
成果	市民に対して、気軽に取り組める冬季スポーツの普及を図ることができた。
課題	参加者の増加につなげるため、歩くスキーの普及拡大が必要である。
今後の方向性	運動不足になりがちな冬季に気軽に取り組むことができるスポーツの普及を図るため、今後も継続する。

項目	こどもスポーツチャレンジ事業（継続）
目的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上を図るとともに、普段接することのない子どもたちがスポーツを通じて、協調性を身につけることを目指す。
取組実績	参加者数 41 名 11 回実施 延 345 名
成果	運動する機会の少ない子どもたちには、継続的に運動するきっかけとなり、参加者には満足度の高い事業となっている。
課題	子どもたちのニーズの把握や、情報収集・研修が必要
今後の方向性	スポーツ推進委員と新たな種目の導入などについて検討を行い、継続して参加してもらえるような魅力ある事業としていく。

項目	夢の教室事業（継続）
目的	「夢先生」が自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などについて講演と実技を通じて子どもたちに伝える。
取組実績	市内小学校 9 校（5 年生。一部の小学校では 4～6 年生） 13 コマ 236 名受講 ※対面開催 ・8 月 29 日 講師「播戸 竜二（サッカー）」中央小学校、西が丘小学校 ・8 月 30 日 「平瀬真由美（ゴルフ）」網走小学校①、呼人小 ・8 月 31 日 「杉本 一樹（空手）」網走小学校② ・9 月 1 日 「杉本 一樹（空手）」東小学校、白鳥台小学校 ・2 月 6 日 「山田 隆裕（サッカー）」潮見小学校①、南小学校① ・2 月 7 日 「青木 沙和（セパタクロ）」潮見小学校②、西小学校 ・2 月 8 日 「滝田 学（フットサル）」潮見小学校③、南小学校②
成果	オリンピック出場選手等を「夢先生」として講師に招き、これまでの歩みや体験談等の話を聞くことにより、子どもたちが自分の夢について考える時間を得ることができた。
課題	子どもたちの関心を高めるため、著名な講師の派遣について依頼を行っていく。
今後の方向性	平成 28 年度以降、市内全校で実施しており、今後も継続して実施する。

項目	障がい児・者スポーツ教室の開催（継続）
目的	障がいのある方が、それぞれの状態に応じたスポーツを行うことにより、活動の場を広げるとともに、身体を動かす喜びを体感してもらい、さらには健康増進・体力向上に繋げていく取組を行う。また、スポーツ大会に出場できる選手の育成を目指す。
取組実績	障がい児・者とその家族等を対象としたスポーツ教室の開催 昼の部 12 回実施 参加申込者 20 名 延参加者 138 名 夜の部 11 回実施 参加申込者 26 名 延参加者 135 名
成果	参加した障がい児・者にとって定期的に運動する機会が増え、参加者及び関係者からは好評価を得ている。
課題	障がい児・者スポーツの専門的知識を持った指導者の育成
今後の方向性	スポーツ推進委員と教室の内容を研究し、継続して開催していく。

項目	日体大連携スポーツ教室の開催（継続）
目的	日本体育大学及び日本体育大学附属高等支援学校と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	令和 5 年 12 月 9 日（土）開催、講師：日本体育大学 副学長 水野増彦 教授 内容：陸上短距離競技者向けの教室 対象：午前の部 小学 4～6 年生及び指導者、午後の部 中学高校生及び指導者 参加者数：79 名
成果	平成 31 年 2 月 9 日の第 2 回開催以来 5 年ぶりに開催し、アスリート及び指導者の育成が図られた。
課題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

(3) 活動組織や指導者の育成

項目	活動組織や指導者の育成（継続）
目的	スポーツ協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子どもたちの育成支援を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域やスポーツ団体との連携（継続） スポーツ協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数：20 団体 団員数：483 名 指導者数：120 名
成果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、市教委主催のスポーツイベントなども通じ、より良い事業展開が図られた。
課題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題を抱えている。
今後の方向性	各団体及び指導者に対する効果的な支援内容を研究しながら、継続して必要な支援を行っていく。

項目	スポーツ少年団活動支援事業（継続）
目的	スポーツ少年団が全道・全国大会に出場する際の交通費を助成することで、活動経費の負担軽減を図り、子どもたちのスポーツ団体への加入を促進する等、スポーツ少年団活動の充実・活性化を図る。
取組実績	全国大会 6 件 計 1,175 千円 全道大会 6 件 計 1,676 千円 合計 2,851 千円
成果	遠征費助成は、スポーツ少年団の活動支援に大きな効果があった。
課題	特になし。
今後の方向性	スポーツ少年団におけるスポーツ振興のため助成を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。

項目	日体大屋内直線走路利用促進事業（継続）
目的	冬季間における陸上競技等のトレーニング施設が不足していることから、日本体育大学附属高等支援学校の屋内走路を活用し、市内のスポーツ団体等の活動の場を広げる。
取組実績	陸上競技 3 団体 利用者 423 名
成果	天候の影響を受けない屋内走路を利用することにより、冬季間のみならず練習内容の充実が図られた。
課題	日本体育大学附属高等支援学校との利用調整が必要
今後の方向性	関係団体等に継続して周知し、更なる利用促進を図る。

(4) スポーツ合宿や各種大会の誘致

項目	障がい者スポーツ合宿誘致事業（継続）
目的	日本障がい者スポーツ協会等の競技団体やトップアスリートへの誘致活動を積極的に実施することにより、合宿誘致を図る。
取組実績	・車椅子レーサー 6団体 9名 延99名
成果	・車椅子レーサー6団体の合宿が行われた。 ・アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。
課題	合宿受け入れ体制（バリアフリー化の推進など）の充実を図る必要がある。
今後の方向性	障がい者スポーツ関係団体等に対し、誘致活動を継続する。
項目	スポーツ合宿受入対策事業（継続）
目的	国内トップアスリートをはじめ多くの競技者の合宿を受入れることにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。
取組実績	ラグビー 2団体 130名 延1,080名 陸上競技 39団体 569名 延5,740名 サッカー 3団体 106名 延679名 スケート 1団体 30名 延390名 その他 6団体 9名 延99名 計 51団体 844名 延7,988名
成果	・陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。 ・合宿延べ宿泊人数は、ラグビー2チーム、女子サッカー3チームの合宿により増加し、当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。 ・アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。
課題	毎年受け入れ人数に多少の増減があるため、安定した合宿者の誘致が課題
今後の方向性	より多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。

項目	全国・全道大会の開催支援（継続）
目的	全国・全道大会開催を支援することにより、大会の円滑な運営を図るとともに、各種目の競技力向上と普及、さらには地域の活性化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ網走大会（継続） ・北海道学生野球春季・秋季リーグ戦（継続） ・高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会（継続） ・網走地方剣道大会（継続） ・オープンヨットレース北海道シリーズ（継続） ・2023 レーザー秋の北海道選手権大会（継続） ・道東ジュニア室内水泳競技大会（継続） ・北海道体操大会（新規）
成果	開催された競技ではレベルの高い大会が行われ、競技力の向上と各団体の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課題	大会開催の支援にあたって、事前に大会規模の把握が必要なこと、また、大会数・規模が毎年変動することへの対応。
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化を図るため、今後も支援をしていく。

項目	インターハイの開催負担金（新規）
目的	令和5年度全国高等学校総合体育大会ボート競技開催の開催経費及び実行委員会経費の負担を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度全国高等学校総合体育大会網走市実行委員会の諸経費負担 ・7月27日開会式、7月28日～7月31日競技・表彰式 ・参加校：185校、参加者：1,162名、観客数：2,199名
成果	・36年ぶりに網走市においてインターハイボート競技開催が円滑に行われた。
課題	・インターハイ実施によるレガシー事業の検討
今後の方向性	・実行委員会は令和5年7月の大会後、実績報告、決算まとめ、次年度開催地への引継ぎを行い、実行委員会を解散し終了した。

7 国際化対応

(1) 国際化に対応した教育や人材の育成

項目	国際理解体験事業（継続）
目的	幼少期から生の外国語に触れたり、外国の伝統的な行事や遊びを体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<p>■ハロウィーン・パーティー2023</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日時 10月27日（金）18:30～20:30 会場 エコーセンター エコーホール、アトリウムロビー 参加者 120名（市内小学生） 市民協力 市民ボランティア 82名 内容 ハロウィーンにちなんだ工作や体験を6ブース設置し、ローテーション形式で開催。コスチュームコンテストも開催。 <p>■世界を旅しよう！～網走で外国を体験～</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日時 7月23日（日）13:00～15:30 会場 エコーセンター 大会議室 参加者 24名（市内小学生） 指導者 オンバサ・ペトロニラ・ニャンチョカ氏（JICA研修生・北見工大） パンディ・プラクリテイ氏（JICA研修生・北見工大）、茶谷堅志郎氏（JICA国際協力指導員）、張ハイ雲氏（東京農大留学生）、佐々木砂宗氏（網走市教育委員）、パーカス氏（ビスターレ・ビスターレスタッフ） 内容 ネパール、中国、ケニアの文化や食習慣などを座学やゲームを通じて体験学習。
成果	令和5年度は、北見工大や東京農大の留学生、JICA職員などを講師に、遊びを通じた国際理解体験の機会を創出した。
課題	「世界を旅しよう！」については、体験学習指導ができる人材確保が課題となっていることから、在住外国人講師の確保などを検討していく。
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多く寄せられており、引き続き取り組んでいく。

項目	英会話指導員の配置（継続）
目的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の英会話に触れることで、外国語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 保育園・幼稚園・小学校での英会話指導 小学校： 9校 783時間35分 幼稚園： 5園 79時間30分 一般・サークル支援 20時間 合計 883時間05分 英会話指導員：シェイン・ラヤソン（カナダ）平成20年8月～
成果	英会話指導は、教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。
課題	各小学校、幼稚園、保育園での外国語活動への対応について、学校などの関係機関と連携しながら調整を図る必要がある。
今後の方向性	小学校の外国語教育の必修化を踏まえ、子どもたちの英語力を高め、国際理解を深める有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員の就任状況

教育長：岩永 雅浩（令和 3年 4月 1日就任）
 委員：富永 雄一（平成24年10月 1日就任、職務代理 平成30年4月1日就任）
 中山 真弓（平成26年 4月 1日就任）
 佐々木砂宗（令和 4年 3月23日就任）
 池田 真哲（令和 5年 3月22日就任）

2 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議(教育委員会議)は、定例会のほか、必要がある場合には臨時会を開催し、教育委員会の議決を要する案件(議案)について審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

令和5年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年1月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席委員数	案 件	審議結果
1	令和5年 4月28日	3名	議案第1号 網走市教育委員会が保有する個人情報の保護に関する規則制定について 議案第2号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第4号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市サン育英奨学金選考委員会委員の委嘱について 議案第6号 網走市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について 議案第7号 網走市教育委員会職員の任免について 議案第8号 網走市社会教育委員の委嘱について 議案第9号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 議案第10号 網走市図書館協議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
2	令和5年 5月24日	4名	議案第1号 令和5年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市附属機関条例の一部を改正する条例制定について 議案第3号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第4号 網走市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第6号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第7号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第8号 網走市美術館協議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

3	令和5年 6月28日	4名	議案第1号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第2号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市社会教育委員の委嘱について	原案可決 〃 〃
4	令和5年 6月29日	4名	議案第1号 網走市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	原案可決
5	令和5年 7月5日	4名	議案第1号 網走市いじめ問題等対策連絡協議会委員の委嘱について	原案可決
6	令和5年 7月19日	3名	議案第1号 網走市いじめ問題調査委員会への諮問について	原案可決
7	令和5年 7月28日	3名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第2号 学校教育法第35条に基づく措置について 報告第1号 網走西ロータリークラブからの寄附について 報告第2号 網走市教育デジタルフェローの就任について 報告第3号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決 〃 報告承認 〃 〃
8	令和5年 8月17日	4名	議案第1号 令和6年度小学校教科用図書および小・中学校 特別支援学級教科用図書(一般図書)に係る採択に ついて 議案第2号 網走市教育委員会事務点検・評価報告書の提出 について 議案第3号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第4号 網走市サン育英奨学金選考委員会委員の委嘱 について 議案第5号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第6号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第7号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 報告第1号 令和5年度網走市社会教育推進計画について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃 報告承認
9	令和5年 8月30日	4名	議案第1号 網走市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	原案可決
10	令和5年 9月12日	3名	議案第1号 令和5年度一般会計補正予算要求について	原案可決
11	令和5年 10月4日	2名	議案第1号 網走市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について 議案第2号 網走市いじめ問題調査委員会への諮問について	原案可決 〃
12	令和5年 10月10日	4名	議案第1号 網走市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	原案可決
13	令和5年 10月23日	2名	議案第1号 網走市いじめ問題等対策連絡協議会委員の委嘱 について	原案可決
14	令和5年 11月14日	4名	議案第1号 令和5年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 学校職員の処分内申について 議案第3号 網走市体育施設等に係る指定管理者の選考 について	原案可決 〃 〃
15	令和5年 12月14日	4名	議案第1号 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の公表 について 議案第2号 網走市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について 議案第3号 令和6年度教育予算の要求について 報告第1号 令和5年度網走市サン育英奨学金奨学生の 採用内定について 報告第2号 網走市立学校における教職員のハラスメント 防止等に関する指針の制定について	原案可決 〃 〃 報告承認 〃

16	令和6年 1月25日	4名	議案第1号 令和5年度一般会計補正予算要求について	原案可決
17	令和6年 2月14日	4名	議案第1号 令和5年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 令和6年度教育予算について 議案第3号 令和6年度教育行政推進方針について 議案第4号 令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等 調査の結果」の公表について	原案可決 〃 〃 〃
18	令和6年 3月7日	4名	議案第1号 網走市立学校管理規則の一部を改正する規則制定 について 議案第2号 令和6年4月1日付校長人事の内申について 議案第3号 令和6年4月1日付教頭人事の内申について	原案可決 〃 〃
19	令和6年 3月28日	3名	議案第1号 網走市立学校に係る部活動の方針の一部改定 について 議案第2号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第3号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 令和6年4月1日付校長・教頭人事について	原案可決 〃 〃 報告承認 〃

※上記のほか、協議会・情報交換等も適宜開催

3 その他の主な活動

(1) 各種会議への出席等

例年、教育委員は、教育委員会会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行っている。

区分・会議名		出席者	時 期
オホーツク 管内教育委 員会協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会	教育長他	令和5年7月14日
	教育委員大会（網走市）	教育長他	令和5年12月1日
	教育長研修会（網走市）	教育長	令和5年12月26日
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（室蘭市）	教育長他	令和5年8月23日
	教育長会春季総会（美唄市）	教育長	令和5年5月10日
	教育長会秋季総会（稚内市）	教育長	令和5年11月15日

※上記のほか、各種会議・研修会等にも出席している。

(2) 教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

令和5年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

<案件以外で説明したもの>

- ・行政事務報告（市議会に係る報告を含む）
- ・各種会議・行事・イベント等の開催案内（毎月）
- ・学校経営報告について（毎月）
- ・いじめ問題について（随時）
- ・小規模特認校制度の導入について

4 教育委員による自己点検

令和5年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

- (1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。
- 令和5年度は5月から新型コロナウイルスが5類に移行したため、まだ年度当初はコロナの影響を受けていた年でありました。そのため校長会や教頭会、PTA役員との情報交換や交流を図ることができずにいた年でもあります。公開研究会や年度末の情報交換会では交流を図ることができましたが、今後は校長会、教頭会など、今まで以上に情報交換ができる場が増えることを願います。
 - 各小中学校ともに様々な問題を抱えていることと感じています。我々教育委員が、もっと学校に出向き、実際の学校の現状を把握することも必要なのではないかと考えます。オープンスクール等の開催情報などを確認し、実際に学校に赴き、学校との連携を図りたいと思います。
 - いじめ問題について、問題が発生してしまった際に、教育委員会と学校との密な連携、迅速な対応が重要な鍵になると考えますが、未然に防ぐという観点で考えると教育委員会、学校、家庭（保護者）、地域の人々との連携が重要になってくると思います。オープンスクール、参観日、コミュニティ・スクール等、様々な場面でいじめ根絶の意識共有を図り、子どもたちが安全で健やかな学校生活を送れるよう努めます。
 - 学校教育においては、ますます地域社会との連携が必要な時代になってきたと思います。社会の良識を数多く学ぶためにも、地域の方々とのふれあいは子どもたちにとって必要であるため、先生方のみならずコミュニティ・スクールへ参加される地域住民の方々や教育委員会が想うベクトルを一致させることが大切と考えます。
- (2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。
- コロナ禍で参加できなかった学校行事（入学式・卒業式）に参加できるようになったのは大変喜ばしいことでした。実際にお伺いすることで感じる学校内の空気感や雰囲気は何物にも代えがたい情報として得ることができました。
 - とてもよい取組が多く行われており、より多くの市民の皆さんに知っていただくための情報発信の在り方を検討します。
 - スポーツ合宿・芸術文化合宿誘致活動は公演会や大会の市民の観覧にもつながり、芸術文化の発展、経済活動はもちろんのこと、子どもたちの教育にも大きく寄与しているものと考えます。一方で、友好都市交流や観光事業など、教育性の高い事業が他部署で行われており、部門間の垣根を超えた協力により、更に意義や効果の高いものとなる考えます。
 - 社会人に対する学びの企画はよく活動されていると思います。受益者である参加市民の数をさらに膨らませるための広報活動が必要だと思います。どのような情報発信がよいのかこれに重きを置いて取り組んでいければと思います。
 - 社会教育では、様々な楽しく新しい企画で市民に向けた学びの場を作っていると思います。継続が活きてくる内容、新たなトレンドとなっている内容と多々あると思いますが、参加者を増やす効果的な広報活動ができるとよりよくなると思います。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・ 市民や児童生徒が健康で安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭・学校と連携を強化し、取組を引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思います。

(4) 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身につけさせるとともに、心の教育の充実に努めたい。

- ・ 児童生徒の学力向上に関しては、諸先生方の努力の結果が出てきたと感じています。更なる向上と、引き上げてきた現状を今後維持していくための取組が必要であると思います。
- ・ 児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増えるとよいと思います。また、道徳の時間の授業公開も更に発展させてほしいと思います。
- ・ 心の教育・道徳については、家庭での協力が重要だと感じておりますので、学校から家庭への働きかけ等を通して、学校と家庭が一体となり取り組む必要があると思います。
- ・ 学力向上を含め、心の教育、食物アレルギーなどについては、家庭との協力が不可欠であり、学校と家庭との結びつきが重要であると感じています。児童生徒、保護者への信用・信頼・安心を互いに築けるよう、学校と家庭の距離感をなくすよう努めてほしいと思います。
- ・ 毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、広報あばしり及び市のホームページにおいて公表していることにより、学校・家庭が一体となって児童生徒の学習への取組が改善され、更なる学力向上につながっていくことを期待します。
- ・ 引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼保小中高連携の推進、P T A・地域との連携による基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた、更なる取組が必要であると思います。
- ・ 児童生徒に配布されているタブレットが、授業や学校のプリント等の活用だけでなく、電子図書館を利用できていることは、本を身近なものとして読書量の増加につながっているものと思います。
- ・ 児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表していることで、学校・P T A・地域が一体となって、更なる体力向上を期待します。また、学力だけではなく、体力についても、学力向上推進委員会と連携を密にし、今後の網走を支えていく子どもたちを育てていかなければならないと思います。
- ・ 大切な学校教育の人的資源である先生方のメンタルケアを行う仕組みづくりが必要と思われます。精神的、内面的にも医療従事者に相談等できるとなお良いと思います。また、時間外労働報告も散見されており、今後も先生方の働き方改革が円滑に進むよう注視していきたいと思います。
- ・ 教育委員会の中でも、学力・体力等の先進的な取組をしているところの視察や研修などを行うことを検討してまいりたいと思います。
- ・ スマートフォンやタブレットなどICT機器に触れる機会も以前にも増して増えていると考えます。いわゆる、「ネットいじめ」に対応した道徳教育、特にSNSやゲームの通信機能等を介在した情報モラル教育はもちろん、ITリテラシーの向上を図り、コミュニケーションや情報端末としての有効活用で、学力の向上にも寄与する取組がより一層必要と考えます。

- ・ 近年 I C T機器を使用した授業が増えてきています。我々が子どもの頃に受けていた授業スタイルとは全く違う取り組み方で授業は進んでいます。保護者の方々や地域の方々に、今、学校で行われている I C T教育がどのようなものかを知ってもらえる機会が増えるとよいのではないかと感じています。

(5) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・ コミュニティ・スクールについて、校長会、教頭会などと連携し、地域の方々と学校とのつながりをバックアップしてまいりたいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの会議内容が学校側からの学校経営方針の説明や報告に偏っていて、もう少し地域の方々と連携が取れるとよいのではないかと感じています。
- ・ コミュニティ・スクールの話し合いの場において、学校や地域の実情、特徴を改めて棚卸しするよう提案していき、個人の持っている認識、情報を共有することで、議論の活性化、相互理解の深化が図られ、より魅力ある地域づくりにつなげてまいりたいと思います。

(6) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取組をしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・ 教育委員会は教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行うことから、今後も積極的に研修会や講演会に参加するなど自己研鑽に努める必要があります。
- ・ 学校生活において、日々起り得る問題に積極的に取り組んでいる他都市の教育委員会や団体から指導及び情報を得て役立てるよう努めたいと思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。引き続き、他市の教育委員会との意見交換の場への積極的な参加に努めたいと思います。

(7) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・ 毎月開催される教育委員会議の開催日程、会議進行は適切であると感じます。今後も効率よく実施し、必要に応じて協議会などを開催するとよいと思います。引き続き、更に円滑な議事進行となるよう、資料の事前配布や全委員が出席できるよう開催日を調整することが必要であると思います。
- ・ 教育委員会議や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対し「なぜ情報発信をするのか」を考え、それを踏まえて「どのようにしていくか」「なにをするのか」を考えることが情報発信に必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。
- ・ これまでに総合教育会議により、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。
- ・ 学校教育施設、社会教育施設の状況を把握するため、可能な限り視察・研修する機会を持ちたいと思います。
- ・ 教育委員会と学校、地域住民、他都市の教育委員会とも連携し、情報交換などの交流を深めていくべきだと思います。
- ・ 各教育計画策定において、わかりやすい表現で広報することが教育委員会活動を市民の皆様へ周知させる第一歩だと思います。

- ・今年度は私たち教育委員用にタブレット端末が貸与されました。これまで教育委員会事務局から送られてきた会議資料等はペーパーレス化となり、悪天候等で参加が難しい場合でもリモート会議での参加が可能となりました。今後も教育委員会事務局との連絡や、教育委員からの情報発信等でも積極的に活用していきたいと考えます。

(8) 学校教育運営のリスクマネジメント支援に努めたい。

- ・いじめ問題の重大事態案件に関わり、網走からいじめの根絶、いじめをさせないということを徹底するために、教育委員会と学校の密な連携、迅速な対応が必要です。また、具体的にいじめ防止策をどのように行うか、今後、いじめが認知された場合は直ちに報告するように、生徒に対するいじめは犯罪の境界にあるということを徹底して教えていく必要があります。私たちも教育委員会事務局のマネジメントを支援し、この問題を不安視する関係者との相互理解ができるよう努めます。
- ・いじめ問題について、問題が発生してしまった際に、教育委員会と学校との密な連携、迅速な対応が重要な鍵になると考えますが、未然に防ぐという観点で考えると教育委員会、学校、家庭（保護者）、地域の人々との連携が重要になってくると思います。オープンスクール、参観日、コミュニティ・スクール等、様々な場面でいじめ根絶の意識共有を図り、子どもたちが安全で健やかな学校生活を送れるよう努めます。（再掲）

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（令和6年8月1日）』

網走市教育委員会外部評価委員

【学校教育】北海道教育大学旭川校 学校臨床教授 吉田 昌広

【社会教育】元網走市社会教育委員 岡山 一枝

1 学校教育

1 総 評

網走市における教育行政の執行に係る外部評価結果について報告いたします。

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されていることを確認しました。課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えます。

以下、「大学という教育・研究機関の検証」という視点から、①網走市教育委員会の令和5年度の活動における全体の評価、②学校現場の教育活動を支援するための提言、の2点について報告させていただきます。

2 大学という教育・研究機関の検証

(1) 令和5年度の活動における全体の評価

各学校の教育活動においては「令和の日本型学校教育」の実現を目指して、GIGA スクール構想に基づいたICTの活用が進められています。また、働き方改革の推進についてもICTを活用した業務改善が進められています。このような網走市におけるICTを活用した取組は、着実に成果を上げ、道内でも先進的な取組として注目を集めていることを実感しています。

一方で、こうした教育の取組の成果や様子は、内外に見えづらかったり、共通理解しづらかったりする傾向が往々にしてあります。教育の営みは学校現場だけで充実するものではありません。教職員はもちろん保護者、地域住民、さらには情報化社会による横のつながりを強化し一体となった取組を展開するためにも、その第一段階として自身のビジョンをわかりやすく提示することが求められると考えます。

具体的な対応策として、保護者目線でもわかりやすい①網走市の教育ビジョンのグラウンドデザイン化、②網走市で育む「学ぶ力」のデザイン化（参考：さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン）、③ホームページ上での教育情報プラットフォームの設置の3点に取り組まれることを希望します。

前述の②については、義務教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（令和5年12月28日）の「生涯学習社会を生き抜く自立した学習者の育成」の項目において、「学びの主導権を適切に委ねることにより、子どもたちが自らの学びを『自分事』として捉え、自発的に他者と関わりながら学びを深めていく学習活動を展開」と表現されているように、今後もICTの活用と「自己選択」「自己決定」を大切にしたい子ども主体の学びが注目されているところです。網走市教育委員会として「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通じて、主体的・対話的で深い学び」をどのようにとらえ、各学校の教育課程においてはどのような位置付けで実践するのか、その方策や方向性を示すことが大切であると考えます。③の「教育情報プラットフォーム」については、前述した①と②に係る資料や特色ある教育活動等の学校情報、現在それぞれの学校が独自に設置しているホームページを掌握して掲示するなどの工夫が考えられます。

網走市の教育を共通理解するところから、未来への新しい歩みが始まることを確信しています。

(2) 学校の教育活動を支援する提言

① 学習指導におけるICTを活用した授業の効果を検証すること

令和5年度全国学力・学習状況調査の国の分析では、児童生徒と学校アンケート調査の結果から、「各教科の正答率は、授業などで考えを発表する場面でのICTの活用頻度と関連性がみられた」とし、ICT活用の効果を示しています。

具体的には、中学校3年生で、発表場面でのICT活用頻度が週3回以上の学校で、課題解決に向けて話し合う学習活動をしている場合は数学の正答率が54.7%であり、ICT活用頻度が週3回未満で課題解決の学習活動を「行わなかった」とした学校の数学は48.9%と、5.8ポイント低かったとしています。文部科学省の担当者は「発表の際にICTを使うことは記述力や表現力に影響している可能性がある」と考察しています。

一方で、学校現場の授業では「ICTの活用が目的になっている」「本来必要な言語活動の機会が失われている」など、ICTの活用が学力向上に結び付いているか疑問視されているケースが散見されます。特に、ICTを活用した「探究的な学びのプロセス」を安易に取り入れた授業は、かつて総合的な学習の時間の導入期に「活動あって学びなし」と揶揄されたこともあり、その二の舞にならないようにすることが肝要です。

GIGAスクール構想や授業での効果的な活用方法を明らかにし、各学校の授業改善に資するためにも、学力向上推進委員会やICT活用推進委員会等の組織を活用し、ICTを活用した授業の効果についてエビデンスを明確にした検証を行うことを提言します。

② 学校業務の効率化についての検証を進めること

網走市においては「Google for Education パートナー自治体プログラム」への参画や、北海道教育委員会の働き方改革に関する指定校事業を受け、またICT活用推進委員会を中核とした実践的な調査研究により、道内でも先進的な取組が注目を集めていることを実感しています。さらに、各学校においては働き方改革コアチームを編成し、学校の実情に合った業務の効率化に取り組まれてきたところです。

具体的には校務に関する「クラウドを活用した情報の一元化」、「クラウド上での協働作業」など時間と場所の壁を超えたICTの活用や、コロナ禍における業務経験を生かした新しい教育活動への改善、PTA活動や学校運営協議会の工夫などが挙げられます。

取組を推進してから数年が経過しているところですが、今後も教育委員会と市内の学校が一体となった取組となるよう、現場の教職員の実感や超過勤務時間に表れる定量性の両側面から、網走市としての取組の検証を行うことを提言します。

③ 在宅勤務に関する環境整備を行うこと

北海道教育委員会は、今夏から道立学校における長期休業期間の在宅勤務を制度化しました。教職員の希望に応じて連続5日間まで在宅で勤務することを認め、多様で柔軟に働ける職場づくりを進めるとしています。校務用端末を持ち出してテレワークを行う場合は、情報セキュリティのテストに合格することなどの条件を設け、児童生徒の個人情報流出防止に十分注意するよう呼びかけています。

一方、網走市における在宅勤務については「特別に教育長が認める場合」として

制度に明記されており、コロナ禍の臨時休業で実施した経緯があります。

そのような中で、現在の校務支援に係るシステムは、外部からの接続ができない「閉鎖系ネットワーク」で構築され、校務パソコンも校外への持ち出し禁止の取扱いとなっており、学校外では校務系データにアクセスして業務に取り組めない実態があります。多様で柔軟な業務形態を構築することは、各家庭の事情や個別最適な業務、研修の取組やすさなどに繋がるのではないかと考え、実現に向けて調査研究されるよう提言いたします。

なお、セキュリティの確保や情報漏えい等への十分な対策、教職員の共通理解が重要であること、平日の帰宅後に自宅での業務をすることには繋がらないよう配慮が必要であることを申し添えます。

3 結び

結びに、網走市は「豊かな自然に囲まれ、ひと・もの・まちが輝く健康都市」と謳われています。その中で教育の担う「ひとづくり」に対して、幼・小・中・高・大学がそろい、教育関連の施設や人々に恵まれているという網走市の大きな強みを生かさない手はありません。今後も、教育を担う学校と保護者地域が一体となり、子どもたちの夢と網走市の未来が地域で結実する「網走市の教育」を実現していくようご期待を申し上げます。

2 社会教育

1 社会教育事業の評価の視点

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類に変更となり、日常生活もコロナ禍以前に戻りつつあった1年でした。各種社会教育事業においても、コロナ禍以前の様相に戻ってきた感があり、市民の社会教育に対するニーズも徐々に高まっているのではないかと認識しています。

社会教育事業の評価については、「社会教育長期計画」を念頭に、事業項目ごとに下記のとおり評価をさせていただきます。

2 各事業項目の評価について

(1) 生涯学習について

- ・ 毎年、多くの市民が参加する「まなび塾フェスティバル」は、令和5年度も多くの市民ボランティアの協力を得て、コロナ禍で中止としていた子どもフリーマーケットなどを再開し、多くの市民が来場しました。「誰もが楽しく学び続けるためのきっかけ」となるよう、今後も工夫を図り、事業が継続されることを希望します。
- ・ 「大きなかぶ応援事業（自主学习グループ活動促進事業）」については、初めて事業申請を行う団体が6団体に上り、市内団体やサークルの認知度が高まっているように感じます。学びを通じた市民の活動が一層推進されるよう取り組みを継続して下さい。
- ・ 令和5年度、オホーツク・文化交流センターでは、施設照明、エコーホールの照明機器が全てLED化されました。省エネ化や長寿命化対策の一貫として実施されましたが、施設が明るく、快適に利用できるようになったことを評価します。
- ・ 図書館では、無断持出感知システムが更新され、電子図書数も615点増冊されました。利用者数、貸出冊数が昨年と比べ減少したことが残念に思いますが、引き続き利用の促進に向け取り組みを進めてもらいたいと思います。

(2) 社会教育について

- ・ 「放課後子ども教室」、「学校支援地域本部事業」、「まちの達人出前事業」、「各種講座の開設」、「科学フェスティバルの開催」など、市民ボランティアや多様な市民団体と連携・協力して社会教育事業に取り組まれています。市民との協働により事業を推進することは、持続可能な地域社会の構築に繋がる取り組みとしますので、今後も一層そのような視点で取り組みが展開されることを期待します。
- ・ 市民が主体となって運営される「網走市民大学」では、市民ニーズに沿ってさまざまなジャンルの著名な講師を招き講座が開設されています。令和5年度は「子ども夢育事業」と連携し、小平奈緒氏を両事業の講師とするなど、工夫を凝らした取組が展開されていることを評価します。
- ・ 令和4年度に取り組まれた「あばしり学」と「北海道科学大学連携講座」の融合講座の取り組みが、令和5年度・第76回全国優良公民館表彰において最優秀館に選ばれことは大変喜ばしいニュースと受け止めています。今後も多様な担い手が一体となり、それぞれの特性を活かし、連携しながら、地域の課題に向き合い、まちづくりに繋げていくよう期待します。

(3) 家庭教育について

- ・ 少子化や核家族化、ライフスタイルの多様化など、子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、令和5年度は「幼児を育てる親の子育て講演会」や「暮らしをデザイン講座」において、子育て世帯を対象とした講座の開設に取り組みられていました。子育て世帯を対象とした事業展開は、子どもを産み育てる環境づくりにもつながりますので、今後も家庭教育の支援に繋がるよう事業が展開されることを期待します。
- ・ 網走市子ども会育成連合会や網走市父母と先生の会連合会、豊かな心を育てる活動推進会議などの組織と連携し、地域全体で子どもを見守り育む活動を展開されています。子どもの健全育成のためには、地域の団体との連携が不可欠だと思います。しかしながら、組織を維持するためには担い手の課題や資金面での課題があると思いますので、今後も子どもの健全育成や見守り活動を行う組織の維持に向け支援をお願いいたします。

(4) 芸術文化について

- ・ 令和5年度の「オホーツク・文化交流センター芸術文化事業」は、市民企画提案を2事業採択され、多くの市民に優れた芸術鑑賞機会を提供されました。今後も市民提案などを取り入れた事業推進をお願いします。
- ・ クラシック音楽鑑賞会実行委員会が主催となって公演された「弦楽アンサンブル・石田組」網走公演は、例年より多くの観客動員があり、併せて「青少年音楽教室」を開催して、子どもたちに優れたアーティストとの交流機会を提供されていました。
- ・ 今後も優れたアーティストの招聘による公演とアーティストと市民との交流機会を醸成することを通じて、市民の芸術文化に対する意識の高揚が図られることを期待します。
- ・ 令和5年度は、障がい者への学習支援体制の構築の一貫で「にじいろ音楽祭」が開催されました。継続して障がい者への生涯学習機会が提供されるよう工夫をお願いします。
- ・ 美術館では、版画で知られる「川瀬巴水」の展覧会が開催されるとともに、子どもを対象としたワークショップを通じて「子ども美術展」が開催されました。今後も優れた作品展が企画されることを期待するとともに、市民の作品が美術館で展示されるなど、市民の創作意欲の喚起に繋がる取り組みを期待します。
- ・ 博物館では、特別企画展として「網走の戦後の暮らし展」、「夜のいきもの展」が開催され、展示説明会も実施されています。市民が歴史や文化、自然などについて体験的に学べる博物館の存在は、豊かな社会生活を営む上で重要なものと認識しますので、今後も魅力ある企画展の開設をお願いします。

(5) 文化財について

- ・ モヨロ貝塚館がリニューアルから10周年を迎え、展示室の改修、野外園路の修繕などが行われました。網走固有の文化を象徴する施設として、今後も魅力ある施設運営がなされることを期待しています。
- ・ モヨロ文化をPRする取り組みとして、「モヨロまつり」や「モヨロ文化市民講座」などを毎年継続して開催されています。市民にモヨロの文化的価値が一層広まるよう、さまざまな取り組みが行われていることを評価します。

(6) スポーツについて

- ・ スポーツの振興は、市民の健康増進、青少年の健全育成、地域コミュニティづくりなどに寄与する重要な分野と認識します。令和5年度は、スポーツを行うための施設が、老朽化や大会誘致などにより予算を拡充して修繕・改修がなされました。今後も、スポーツ団体や利用者等の意見を踏まえ、計画的な修繕・改修が図られることを希望します。
- ・ 令和5年度は「全国高等学校総合体育大会ボート競技」が開催され、全国より多くの選手、関係者、観客が網走を訪れてくれました。全国規模の大会誘致は、スポーツ環境の整備やまちの活性化にも繋がるものと思いますので、今後も計画的な大会誘致活動をお願いします。
- ・ 「スポーツ合宿」の受入について、令和5年度は、ここ数年、受入実績がなかったラグビー団体が2団体合宿されていました。また最近、新たに女子サッカーチームの合宿も加わっています。合宿誘致は地域のスポーツ振興やまちの活性化にも寄与するものと認識しますので、積極的な広報活動などを通じて、継続的かつ安定した合宿誘致に取り組まれることを期待しています。

(7) 国際化対応について

- ・ 網走市では、幼少期から外国語や外国文化に接する機会を創出するため、社会教育課に英会話指導員を配置し、国際化に対応した取り組みを展開していることを評価します。
- ・ 令和5年度も「国際理解体験事業」を通じて、子どもたちに外国文化に接する機会を提供し、国際化に対応できる人材育成に取り組まれています。
- ・ 今後、一般市民にも外国語や外国文化に接する機会を創出し、生涯学習の視点から国際理解が市民に浸透するよう取り組みが展開されることを期待します。

3 社会教育事業の総評について

令和5年度の社会教育事業は、「網走市社会教育長期計画」に基づき、教育行政推進方針に沿って各分野において、積極的に事業展開されたと伺われます。人口減少社会の到来により、地域社会を維持するためには、一人ひとりが果たすべき役割が増していくものと考えられます。また一方で、地域の各分野で担い手の不足が課題となっています。

市民が自ら学び、市民同士のつながりを通じて、地域の課題を解決し、豊かな生活を築く循環としての「社会教育」の取り組みがますます重要となっているように感じますので、市民が社会教育事業への参加を通じて、豊かな生活を維持していけるよう、今後の取り組みに期待いたします。

また、令和6年度は、まちなかに市役所本庁舎が新たに移転され、市役所庁舎がまちづくりに何かしらの影響を与えていくことが期待されています。新庁舎において芸術や文化に関連した機能が備わり、市民が気軽に接することができるような仕掛けがあれば、市民生活にも潤いがもたらされると思いますので、是非、ご検討をお願いいたします。